

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

和仏法律学校講義録

松岡、義正

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

3-35

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

59

(発行年 / Year)

1903-05-13

和佛法律學校

和佛法律學校講義錄

第百九號



三十五年度 第三學年ノ三十五

明治三十六年五月十三日發行

(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可。每月廿一同一日三日五日八日十日十二日十三日十五日十六日十八日廿日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行)

0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

第三學年第三十五號目次

民事訴訟法 自第六編
至第八編
(自四一四)

法學士 松岡義正

雜報

○商法施行前ニ於ケル運送人間ノ求償權○償還義務者ノ求償手續

○積荷ノ保險

債務者ニ對シ債務者ニ支拂タ爲スコトヲ誓シ且ツ債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スヘカラナル旨ノ命令ヲ發シ債權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ送達シ又債權者ニ送達シタル旨ヲ通知シテ差押ヲ爲ス
執行裁判所ハ債權者ノ申請ニ因リテ確實ニ表示セラレタル金錢債權ヲ有效
差押フルコトヲ得金錢債權ノ確實ナル表示トシテハ債務者カ金錢債權ニ關スル債權者ナルコト、第三債務者債權ノ目的並ニ數額其他債權ノ原因ヲ表示スルコトヲ要ス蓋シ斯ル表示ハ事實上必要ニシテ又第六百十八條ノ適用ヲ全ワスルカ爲メニ必要ナリ然レトモ差押フヘキ債權カ債務者ノ財產ニ屬スル旨ノ證明
ハ之ヲ必要トセス何トナレハ債權ノ差押ニ關シテハ唯債權者ヨリ申立ヲラレタル債權ヲ差押フルニ止マリ債權ノ有無ヲ調査スルモノニ非サレハナリ但シ差押フヘキ債權カ形式上債務者ニ屬セサルキハ債權者ハ適當ナル疏明ヲ爲ササルヘカラス又差押フヘキ債權カ期限附タルト條件附タルト争ニ係リタルト訴訟ノ目的ナルト第三債務者カ内國ニ住スルト外國ニ住スルト我帝國ノ裁判權ニ支配セラルト否ト債權ノ履行地カ内國タルト否トハ之ヲ調査スルノ

民事訴訟法

正

権利者ニ對シ債務者ニ支拂フ爲ストラ然シ且ラ債務者ニ對シ債權ノ處分殊

090
1902
3-1-35

ニ其取立ヲ爲スヘカラツル旨ノ命令ヲ發シ債權ヲ以テ第三債務者及上債務者
ニ送達シ又債權者ニ送達シタル旨ヲ通知シテ差押ヲ爲スセリ
執行裁判所ハ債權者ノ申請ニ因リテ確實ニ表示モラレタル金錢債權ヲ有效
差押フルコトヲ得金錢債權ノ確實ナル表示トシテハ債務者カ金錢債權ニ關スル
債權者ナルヨト、第三債務者債權ノ目的並ニ數額其他債權ノ原因ヲ表示スルコ
トヲ要ス蓋ミ斯ル表示ハ事實上必要ニシテ又第六百十八條ノ適用ヲ全ロスル
カ爲メニ必要ナリ然レモ差押ノベキ債權カ債務者ノ財產ニ屬スル旨ノ説明ヲ
ハ之ヲ必要トセヌ何トナヒ債權ノ差押ニ關シテハ唯債權者ヨリ申立テラ
タル債權ノ差押フルニ止マリ債權ノ有無ヲ調査スルモノニ非少レハナリ但シ
差押ノベキ債權カ形式上債務者ニ屬カズタル夫キハ債權者ハ適當ナル疏明ヲ爲
ササルヘカラス又差押ノベキ債權ガ期限附タルハ債件附タルト争ニ係リタク
不訴訟ノ目的ナルト第三債務者カ内國ニ住スルト外國ニ住スルト我帝國ノ裁
判權ニ支配セタダルト否ト債權ノ履行地カ内國タルト否塞ハ之ヲ調查スルヨ

必要ナシ蓋シ此等ノ問題ハ差押命令ヲ發ス時際シテ必要ナルモノニ非スレ
テ却テ差押以後ノ手續ニ於テ必要ナルモノナレハナリ殊ニ執行裁判所ハ當然
我帝國ノ裁判權ニ支配セラレサル第三債務者ニ對シテ何等ノ命令ヲ發シ又執
令ヲ發スルコト能ハス然レトモ賜託官廳ノ其助ニ依リテ職權ヲ以テ斯ル第三
債務者ニ對シ我帝國內ニ於テ爲シタル支拂ハ債務者カ我帝國內ニ於テ處分能
力ヲ喪失シタルカ爲メニ第五九八條總述民事訴訟法第七三〇條有効ナリト認
メラレナル旨ヲ通知スルノ權ヲ有シ又斯ル第三債務者ニ對スル債務者ノ債権カ我
帝國內ニ於テノ債権ノ讓渡ト同一ノ效力ヲ以テ債権者ニ移轉セラル旨ヲ通知
スルノ權ヲ有ス第六〇〇條第六〇一條第六〇六條總述民事訴訟法第七三六
條第七三七條又執行裁判所ハ當然我帝國裁判權ノ行ハレナル事物ニ付キ有效
ナル差押ヲ爲スヨト能ハス蓋シ差押ハ差押トヘキ債権カ國際法ノ原則ニ從ヒ
テ我帝國ノ強制權ニ支配セラルヲ前提要件ト爲スヲ以テナリ而シテ差押フ
ヘキ債権カ我帝國ノ強制權ニ支配セラルヤ否ヤ第三債務者カ我帝國內モ
於テ債務ヲ履行スヘキ債務ヲ負フヤ否ヤニ依リテ定マル蓋シ特約ナキ以上ハ

債権ノ履行地タ債権ノ所在地ナリ隨テ該地ニ行ハダル法カ準據法ナレハナリ
然レトモ此問題ハ債権ノ差押ニ際シテ調査セラレサルモノナリ何トナレハ債
務者及ヒ第三債務者ハ差押ニ際シテ審訊スヘキモノニ非ナレハナリ(第五九七
條)第三債務者ハ債権ノ所在地ノ外國ニ在ル旨ア主張シテ差押ニ對レ
テ異議ヲ申立テ又債務者ハ同一ノ理由ニ基キ差押ニ對シ異議ヲ申立フルコト
ヲ得ヘシ(第五四四條第五五八條)
金錢債権ノ差押ノ形式ハ第三債務者ニ對スル差押命令ノ送達ニ因リテ完成ス
(第五九八條第三項)此ニ差押ノ效力ノ發生ニハ第一ニ差押命令ヲ發スルコト
ニ其命令ヲ第三債務者ニ對シテ送達スルコトヲ要ス第一ニ差押命令ヲ發スル
コトハ強制執行手續ヲ開始スルニ非スシテ却テ強制執行ヲ開始スル執行裁判
所ノ行爲ナリ(執行手續ハ執行文付與ノ時ニ於テ開始シ執行ハ債権者ヨリ行動
ヲ要求セラレタル執行機關カ債務者ニ對スル執行行為ヲ現實ニ爲シタル時ニ
於テ開始ス後ニ執行開始ノ條件カ成熟セナル間ハ差押命令ヲ發スルコトヲ得
ス差押命令ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂フヘカラナガ旨ノ禁令即ナ以後

債務者ニ對シ爲シタル支拂ハ以前ノ支拂ハ此限ニ在ヌス債務消滅ノ效力ヲ生ゼナルコトノ宣言ト債務者ニ對シ債權者ヲ害スヘキ債權ニ關スル處分殊ニ其取立ヲ爲スヘカラナル旨ノ命令(支拂フヘキ金額ノ併記ア求ムル訴ノ如キ債權者ヲ害セサル有爲ハ此限ニ在ヌスヲ包含ス但シ裁者ノ命令ヲ違脱スルモ第三債務者ニ送達セラレタル差押命令ノ效力ヲ害セス蓋シ債務者ニ對スル命令ハ實際的ノ必要アルニ止マレハナリ然レトモ債權者ハ執行裁判所ヲシテ該命令ヲ發セジムルノ權利ヲ有ス而シテ差押命令合ひ送達機關ニ對シ送達スヘキ證本ヲ交付スルニ依リテ送達セラルルモノノタルヤ當然ナリ(第五四四條第五五八條第二ニ差押命令ノ送達ハ獨逸民事訴訟法ト異ニシテ職權ヲ以テ之ヲ爲ス第一三六條第一五三條第一五五條等第三債務者ニ對スル送達ハ補充送達ニ依ルコトヲ得ルモ(第一四五條乃至第一四七條公示送達ニ依ルコトヲ得ス(第一五六條第一五七條何トナレハ第三債務者ハ當事者ニ非サルヲ以テナリ故ニ公示送達以外ノ送達ニ因リ第三債務者ニ對シテ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ金錢債權ノ差押ハ其效ナキモド知ルヘシ債務者ニ對スル送達の債務者ノ所在

明カナラサルカ又ハ債務者カ外國ニ在ルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ要セス(第五四二條)而シテ此場合以外ニ於テ債務者ニ對シ送達ヲ爲ナサリシカ爲メニ差押ノ效力ヘ毫モ害セラルルコトナシ唯裁判所書記並ニ執達吏ハ債務者ニ對シテ爲スヘキ送達ヲ爲ササリシ事實ニ因リテ債務者ニ生シタル損害ヲ賠償スヘキノミ執達吏ハ差押命令ノ送達ヲ爲スニ當リテ法律上明文ナシト雖モ第三債務者ニ對シテ先ニ送達スルヲ適當トス何トナレハ若ヨ然ラスンハ債務者ハ第三債務者ニ對スル送達ナキヲ奇貨トシテ債權ヲ處分スルコトヲ得レハナリ第三債務者トハ債務者ノ債務者ナリ故ニ債務者及ヒ債權者ニ非サル第三者タルコトアリ供託所ノ如キ差押ヘラレタル金錢其他ノ物件ヲ保管スル官廳ナルコトアリ又債權者タルコトアリ債權者カ第三債務者ナル場合ニ於テ差押ヲ爲スニモ亦差押命令ヲ債權者ニ送達セナルヘカラス何トナレハ債權者ハ第三債務者タル資格ヲ併有スルモノナレハナリ隨テ債務者ニ對シテノミ差押命令ヲ送達シタルトキハ差押ノ效力ナシ第六百二十五條ハ金錢債權ノ差押ニ準用スヘキモノニ非サレハナリ但シ債權者カ第三債務者タルトキハ金錢債權ノ差押ノ

結果トシテ法律上相殺ヲ許サナル場合ニ相殺ノ結果ヲ發生スルヲ理由トシテ
差押ヲ許スヘキモノニ非スト主張スル反對説アレトモ採用スルニ足ラス何ト
ナレハ相殺カ法律上許サレナルノ理由ニ因リテ適法ナル他ノ行為ニ因リ同一
ナル結果ヲ發生セシムルコトヲ禁シタルモノト認ムルコト能ハナレハナリ第
三債務者カ多數ナルトキ(不可分又ハ連帶債務等)ハ各債務者ニ對シ差押命令ヲ
送達スルニ依リテ各債務者ニ對シ差押ノ效力ヲ生ス(民法第四二九條第四三〇
條、第四四〇條債務者及ヒ第三債務者ハ差押命令ヲ發スルニトニ對シテ異議ヲ
申立ツルコトヲ得第五四四條又其異議ニ對スル裁判ニ對シ即時抗告ヲ爲スコ
トヲ得第五五八條^(手續))

差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ效力ヲ生ス金錢債権ノ差押ノ效力トシ
スハ

(4) 第三債務者ハ差押命令ノ送達以後有效ニ債務者ニ對シ支拂ヲ爲スコトヲ
得ス然レトモ之カ爲メニ債務者ハ差押債権ニ關スル權利ヲ喪失スルモノニ非
ス適法ナル債権ノ轉付命令ノ發セラルムマテハ依然差押債権ノ債権者ナリ故

(3) 債務者ハ第三債務者カ破産宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ債権ノ届出ヲ爲シ且
ツ破産債権者トシテノ離決権ヲ行使スルコトヲ得第三債務者カ差押命令合ノ送
達アリタルモ差押ノ事實ヲ知ラテリシカ爲メニ(差押命令合ノ補充送達ニ依リテ
前述セラレタル場合ノ如キ債務者ニ對シテ爲シタル支拂其他債務者ト約レ
タル延期又ハ債務ノ免除等ハ差押債権者ニ對シテ效力ヲ有スルケ否ヤハ民法
ニ依リテ之ヲ定ム何トナレハ第三債務者ニ對スル禁合及ヒ債務者ニ對スル命
令ハ債権差押ノ形式ヲ定メタルモノニシテ差押ニ附帶シタル民法上ノ效力ヲ
定ムルモノニ非ツレハナリ^{前項を詳述する所缺}而シテ余輩ハ民法上ノ原則ニ從ヒテ有效ガリト論決スルヲ正當ト信ズ何ト大
レハ第三債務者ハ善意ナルヲ以テナリ第三債務者ハ債権ノ差押アリタルニ因
リテ支拂期ニ達シタル債務ノ支拂ヲ免ルモノニ非ス債務額ヲ供託シテ債務
關係ヨリ離脱スベキ義務ヲ負ヒ又権利ヲ有ス是ヲ以テ債権ノ差押ハ債務者カ
第三債務者ニ對シテ債務額ヲ供託ヲ爲スヨリト得ルノ妨ト爲ラス何トナレハ法律
ノ爲メニスル強制執行ノ申立ヲ爲スヨリト得ルノ目的

ハ差押ニ因リ債務者ニ對シ唯差押債権者ヲ害スル行爲ヲ禁シタルニ止マシハナリ同一ノ理由ニ依リ債務者又第三債務者ニ對シ差押債権ニ關スル確認ノ訴ヲ提起スルヨコトヲ得第三債務者ハ債務者カ差押アリタルニモ拘テス支拂ヲ求ムル訴訟ヲ提起シ又ハ差押以前ニ提起シタル支拂ヲ求ムル訴訟ヲ續行シタルトキニ於ク差押アリタルヨコトヲ理由トシテ原告タル資格大きヒト實體上ニ抗辯ヲ口頭辯論終結マテニ提起スルヨコトヲ得但シ差押カ第三債務者ニ對シ負擔ヲ當渡シタル判決確定以後ニ於テハレタルトキハ前示ノ抗辯ヲ民事訴訟法第五百四十五條ノ規定ニ基キ訴ヲ以テ主張シ且フ民事訴訟法第五百四十七條ノ規定ニ從ヒテ強制執行ヲ避タルヨコトヲ得民事訴訟法第五百五十條殊ニ同條第二ハ此場合ニ適用ナリ何トナレハ該規定ノ強制執行ノ停止ニ關スル裁判ヲ前提ト爲セハナリ故ニ第三債務者ノ差押命令ノ提出ハ執達吏カ執行ヲ停止スルノ效力ヲ生ズルモ非セキモ却ニ第三債務者ノ求モ依リ債務額ヲ供託スルノ效力ヲ生ズルモ過キヨリ第三債務者ニ對スル差押ノ效力ヲ失ル時亦同様(ロ)債務者ハ差押債権者ノ差押權ヲ害スベニ至リヘキ債権ノ處分ヲ爲スコト

ヲ得ス附テ差押債権者ノ差押權ヲ害セナル範圍内ニ於ク差押債権ヲ處分スルコトヲ得ヘシ債務者カ爲シタル差押債権者ノ權利ヲ害スル行爲ハ無効ナルヤ否ヤハ民法ニ依リテ之ヲ定ム余輩ハ法理上無効ナリト論結スルヲ正當ト認ム(デルンブルヒ氏・パンデクタン)第一卷第二百十七節參照然レトモ差押命令カ未タ第三債務者ニ對シ送達アラサル場合ニ於クハ之ニ反ス何トナレハ未タ差押ノ效力ヲ發セサレハナリ第三取得者カ善意ナル場合モ亦然ラ(債務者ニ對スル效力)寡人マサヤ貞親第三十二章以不動産者ニ就任其役職ニ就きを備入ニ申請ハ差押命令ノ送達以前ニ於ク差押債権ニ付キ權利ヲ取得シタル第三者ハ其後ノ差押ノメニ何等ノ不利益ヲ被ラサルヨコトハ敢テ疑ナキ所ナリ然レトモ債務者ニ對スル差押命令ノ送達以前ニ於ク債務者ヨリ差押債権ヲ讓受ケタル者ノ權利ハ債権譲渡ノ通知又ハ之ニ關スル第三債務者ノ承諾以前ニ於ク差押ヲ爲シタル差押債権者ノ權利ニ優先スルヨコト能ハサレハナリ(民法第四六七條又命令ノ送達ヲ受ケタル後差押債権者ノ權利ヲ害スル方法ニ於ク債務者ヨリ債権譲渡ノ通知ヲ受ケ又ハ之ヲ承諾スルヨコト能ハサレハナリ)

第三債務者カ債權讓渡ノ通知ヲ受タル以前ニ於テ差押債權者ニ支拂フ爲シタレトキハ讓受人ハ其權利ヲ第三債務者ニ有效ニ主張スルコト能ハス何トナレ
「讓受人ハ適當ナル時期ニ於テ債權讓渡ノ通知ヲ爲ナサリシヲ以テナリ」(效力)
第五十九條獨逸舊民事訴訟法第七三〇條) 本ノ元請出典ヘ付テ著書
抵當附(不動產質ヲモ包含ス)金錢債權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スルノ權利アリ是レ債權者ノ爲メニ差押ノ效力ヲ擔保物ヲ買受ケタル者ニ對シ對抗スルコトヲ得セシムルカ爲メナリ(民法第三八二條以下債權者ハ執行裁判所ニ對シテ記入ノ申請ヲ差押命令ノ申請ト同時又ハ其申請以後ニ爲シ裁判所ハ擔保物ノ所有者ニ對シ差押命令ヲ送達セタル後ニ於テ記入ノ手續ヲ實施ス蓋シ擔保物ノ所有者即チ第三債務者ニ對シテ差押命令ヲ送達セタル以前ニ於テハ債權差押ノ效力ナキモノナヒハナリ記入手續ノ實施ハ裁判所カ登記判事ニ記入ヲ嘱託スルニ依リナテ行ハル(第五十九條獨逸舊民事訴訟法第八三〇條)」
俸給又ハ此ニ類似スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシテ差押以

後ニ收入スヘキ金額ニ及フモノナリ是レ我民事訴訟法カ獨逸民事訴訟法ト同シク俸給其他此ニ類似スル繼續收入ヲ以テ全體ノ債權ト爲シ唯其履行カ各時期ニ分ダレタルモノト認メタルニ由レリ俸給ハ勞務ニ對スル報酬ニ非シテ官吏タル地位ニ伴フ生活資料ナリ俸給ニ類似スル繼續收入ハ法規ノ目的ト原因トニ從ヒテ推究スレハ單一ナル法律關係ニ基キ第三債務者カ債務者ニ對シテ毎期ニ給付スヘキ債務者ノ收入ナリト謂ハナルヘカラス故ニ恩給金ノ請求終身年金ノ請求養料ノ請求ノ如キハ之ニ屬ス賃金ノ支拂ヲ求ムル貸貸人ノ權利契約ノ内容ニ從ヒテ唯一ノ權利ト認ムルコトヲ得ル場合ニ於テハ繼續收入ト爲ルヤ言ラエタス然レトモ辯護士公證人カ當事者ヨリ受領スヘキ收入醫師カ其醫術ノ應用ヨリシテ受取ルヘキ收入等ハ俸給ニ類似スル繼續收入ト認ムヘカラス何トナレハ該收入ハ繼続的性質ヲ缺クモノナレハナリ公私ノ職務上人收入ノ差押ハ以後ノ變更ニ因レル收入ニモ亦及ブモノタリ債務者ニ對シ職務上ノ收入ヲ給付スル者即チ第三債務者國家又ハ一私人ノ變更ハ新ナル差押行為ヲ必要トス故ニ債務者タル官吏カ會社員ト爲リタル場合ニ於テハ官吏タル

職務上收入ノ差押カ會社員タル職務上ノ收入ニ及ハサルモノトス債務者ト第三債務者トノ間ニ於ケル單純ナル職務關係ノ變更ハ既ニ爲シタル職務上ノ收入ノ差押ニ對シ何等ノ影響ヲ及ホス所ナシ債務者ノ轉官兼任増俸ノ如キ即チ是ナリ故ニ職務上收入ノ差押ハ此等ノ變更ニ因レル收入ニモ亦及フヘキモノタルヤ當然ナリ同一ノ法理ハ恩給ヲ差押ヘラレタル退職官吏カ復職シタル場合若クハ職務上ノ收入ヲ差押ヘラレタル現任官吏カ退職セラレタル場合ニ於チ受領スヘキ職務上ノ收入ニ關シテモ行ハル(恩給ノ差押ヲ爲スコトヲ得ルト假定ス)第六〇四條第六〇五條)

(二) 有體物ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスル債權ニ關シテハ法律上何等ノ區別ナキヲ以テ目的カ占有ノ移轉ナルト損害ノ賠償ナルト目的物カ動產ナルト不動產ナルト又請求ノ性質ハ物權のナルト債權的ナルトニ拘ラス立法的類推上前ニ述ヘタル金錢債權ノ差押ト略ニ同一ノ手續ニ依リテ差押ヲヘキモノトス(第六一四條獨逸民事訴訟法第七四五條引渡ハ特定物ノ交付ニシテ給付ハ代替物ノ交付ナルコトハ獨逸舊民事訴訟法第七百六十九條及ヒ第七百七十條ノ條亦引渡ト謂フカ故ニ法文上引渡ト給付トノ間ニ於テ何等ノ區別ナキカ如キモ引渡及ヒ給付ナル法語ヲ併用ハルトキハ前ニ示シタルカ如キ區別ニ基キタル法意ナリト解釋スルヲ正當ナリト信ス)而シテ特定ノ金錢ノ引渡ヲ目的トスル債權ハ第六百十四條ニ依リテ差押フヘキモノニシテ第七百三十條ニ規定シタル債權トシテ取扱フヘキモノニ非ス何トナレハ此種ノ債權ハ其内容ニ從ヘハ民事訴訟法第六百十五條(獨逸民事訴訟法第七四五條ニ規定シタル以外ノ差押手續ト調和スルコト能ハサレハナリ但シ單純ナル行為若クハ不行爲ヲ目的トスル債權ハ此限ニ在ラナルヤ言フ埃タス然レトモ變則トシテ

(1) 差押ヲヘキ債權ノ目的物カ有體動產ナル場合ニ於テハ執行裁判所ハ民事訴訟法第五百九十八條及ヒ第六百十四條ニ基キテ差押命令ヲ發スルト同時ニ第三債務者ニ對シ目的物ヲ債權者カ委任シタル執達吏ニ引渡スヘキ旨ノ命令ヲ發ス第六一五條第一項差押ニ付テハ獨逸舊民事訴訟法第七四六條第一項はレ差押ヲヘキ目的物ヲ公ノ保管ニ付スヘキ目的ニ出タル規定ナリ此命令ノ

送達及ヒ差押ノ效力發生等ハ第五百九十八條ノ規定ニ依ル第六一四條目的物カ第五百七十條ノ規定ニ從ヒ差押フルコト能ハナル物ナルトキハ差押ヲ爲スコトヲ許サス故ニ執行裁判所カ差押命令ノ申請ヲ却下シ又ハ既ニ發シタル差押命令ヲ債務者ノ異議ニ基キ第五四四條取消ナアルヘカラス其他差押ハ常ニ民事訴訟法第六百十八條ニ規定シタル制限ヲ受クルモノトス而シテ引渡スベキ差押物カ債務者及ヒ第三債務者ノ共ニ屬シタルトキハ差押ハ唯債務者ニ歸スベキ持分ニ對シテノミ行ハル故ニ目的物ノ引渡命令ニ於テ債権者ヨリ委任セラレタル執達吏若クハ第三者カ目的物受領ノ權アル旨ヲ記載セナルヘカラス此記載ヲ缺キタル場合ニ於ナハ第三者ハ第五百四十九條ノ規定ニ基キ異議ノ訴ヲ提起シ以テ自己ノ利益ヲ防衛スルコトヲ得ヘシ執行裁判所ハ引渡命令令ヲ發スルニ際リテ特ニ執達吏ノ氏名ヲ命令中ニ於テ表示スルコトヲ要セス何トナレハ執達吏ハ第三者ニ對シ執行力アノ正本ヲ所持スルニ因リテ目的物ヲ受領スルノ權限アフルヲ以テナリ(第五三四四條第三債務者ハ引渡命令ニ送達ニ因リテ受領ノ權限ヲ有スル執達吏ニ目的物ヲ引渡スメ義務ヲ負フ然レモ第

三債務者カ引渡命令ニ應セサルトキハ執達吏ハ目的物ヲ第三債務者ノ意思ニ反シテ取立ツルノ權ナシ唯執行調書ニ於テ拒絶シタル旨ヲ記載スベキノミ債権者ハ斯ル場合ニ於テ其債権ヲ第六百條及ヒ第六百一條ニ基キテ自己ニ轉付セシメ第三債務者ニ對シ第六百十五條ノ趣旨ニ從ヒテ自己カ委任シタル執達吏ニ目的物ヲ引渡スベキ旨ノ訴ヲ提起スルコトヲ得第六一〇條獨逸舊民事訴訟法第七四〇條此訴ヲ是認シタル判決ハ第七百三十條ノ規定ニ從ヒテ執行スルモノタリ而シテ第三債務者カ任意ニ又ハ判決ノ結果トシテ目的物ヲ執達吏ニ引渡セタルトキハ此時期ヨリシテ債権者ノ爲ミニ目的物其物ニ對スル差押權力成立スルモノトス第五六六條第五六七條第三債務者タルト否トヲ問ハス引渡スベキ目的物上ニ有スル第三者ノ權利ハ民事訴訟法第六百十五條第一項ノ命令ノ爲ミニ損傷セラレス故ニ第一ニ第三債務者ハ斯ル權利ニ基キ引渡ヲ拒絶シ且フ訴訟ニ於テ抗辯シテ提出スルコトヲ得ヘシ何トナレハ引渡命令ハ大三債務者カ第三者ニ對スル目的ニ關スル責任ヲ免除スルモノニ非サレハ大マ第二ニ第三債務者カ引渡ヲ爲シタルトキハ第三者ハ目的物ニ關スル自己ノ

權利ヲ第五百四十九條及ヒ第五百六十五條ノ規定ニ從ヒテ主張スルコトヲ得
第三ニ第三債務者ハ目的物上ニ質権ヲ有スル場合ニ於テ之ニ基キ目的物ノ提
出ヲ拒マサル以上ハ第五百六十五條ノ規定ニ基ク優先的辨済ヲ求ムル權利ヲ
主張スルコトヲ得ヘシ
 (ロ) 差押フヘキ債権ノ目的物カ不動産ナル場合ニ於テハ其目的カ占有權ノ移
轉ナルト所有權ノ移轉ナルトニ拘ラス(法律上區別ナキヲ以テ執行裁判所ハ民
事訴訟法第五百九十八條ニ基キテ差押命令ヲ發スルト同時ニ債權者ノ申立ニ
因リテ第三債務者ニ對シテ目的物タル不動産ヲ其所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨ
リ命シタル保管人ニ引渡スヘキ旨ノ命令ヲ發ス(第六一六條第一項獨逸舊民事訴
訟法第七四七條第一項是レ前ニ述ヘタル所ト同一ノ法意ニ出ツルモノニシテ唯
其引渡フ受クヘキ者カ執達吏ニ非シテ却テ區裁判所ヨリ命セラレタル保管
人タルノ差異アルノミ此命令ノ送達及ヒ差押ノ效力發生等ハ第五百九十八條
ノ規定ニ依ル引渡スヘキ不動產カ債務者及ヒ第三者ノ共有ニ屬シタル場合ニ
於テハ差押ハ債務者ノ有スル持分ニ對シテノミ行ハルルコトハ前ニ述ヘタル

如シ保管人ノ任命ハ執行裁判所ノ職權ニ屬セシテ不動產所在地ノ區裁判所所
ノ職權ニ屬スル理由ハ此命令ト共ニ不動產ニ對スル強制執行カ開始セラレタ
レハナリ(第六四一條獨逸舊民事訴訟法第七五五條債權者ハ引渡命令ニ包含シ
タル差押命令ヲ不動產所在地ノ區裁判所ニ提出シ以テ保管人ノ任命ヲ求メ裁判
所ハ該任命ノ決定ヲ第三債務者ニ送達ス第五九八條第三債務者カ引渡命令ニ
應セナル場合ニ於ケル手續等ハ前ニ述ヘタル所ト同一ナルワ以テ之ヲ省略ス
而シテ目的物ヲ保管人ニ引渡スヘキ旨ノ訴ヲ是認シタル判決ハ第七百三十一
條ノ規定ニ從ヒテ執行スルコトヲ得ヘシ
 (三) 債權ニ非ナル財產權ニ關シテハ前ニ述ヘタル差押方法ニ準據シテ差押ヲ
爲ス(第六二五條第一項第五九四條乃至第六二四條殊ニ執行裁判所ノ管轄差押
命令ヲ發スルコト及ヒ其送達ニ關シテハ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ノ適用
ヲ受タルモノナリ第五九四條第五九八條而シテ差押フヘキ財產權ニ付キ其行
使上第三者ノ給付若クハ承認ヲ必要ト爲ス場合之ヲ換言スレハ差押フヘキ財
產權ニ對シテ特定ノ給付ヲ爲スヘキ義務ヲ負ヒタル第三者アル場合ニ於テハ

地上横永小作權等ノ如キ第三者ニ對スル差押命令ノ送達ニ因リテ差押ヲ爲シ
斯ル第三者ナキ場合ニ於テハ専賣權ノ如キ債務者ニ對シ少クトモ權利ノ處分
ヲ禁スル旨ノ命令ヲ包含シタル差押命令ヲ送達スルニ因リテ差押アリタルモ
ノト看做ス蓋シ第三者ナキヲ以テ第五百九十八條ノ規定ヲ適用スルコト能ハ
ナレハナリ其他執行裁判所ハ差押ニ因リ處分シ得ヘキ權利ニ付キ特別ノ命令
ヲ發スルノ權ヲ有スルニ管理者ニ管理セシムルカ如キ命令ヲ發スルコトヲ得
此場合ニ於テハ管理スヘキ物件ヲ管理者ニ交付スルニ因リテ差押ノ效力ヲ生
スルモノナリ但シ第三者若クハ債務者ニ對スル差押命令ノ送達ニ因リテ既ニ
差押ノ效力ヲ生シタルトキハ此限ニ在ラス差押ノ消滅ハ前ニ説明シタル所ナ
ルヲ以テ茲ニ之ヲ省ク

財產權ハ總テ差押フルコトヲ得ルモノニ非ス動產中ニ於テ差押フルコト能ハ
タル物アルトシシク財產權中ニモ差押フルコト能ハサルモノアリ
(イ) 民法上他人ニ移轉スルコト能ハサル財產權ハ強制執行ノ爲メニ差押フル
コトヲ得ヌ何トナレハ金錢債權ノ強制執行ハ債務者ノ財產ヲ以テ債權者ノ捕

足ニ供スルモノナルカ故ニ此種ノ財產權ハ強制執行ノ目的物タルコトヲ得テ
レハナリ
(ロ) 特別法ヲ以テ差押ヲ禁止シタル財產權例ヘハ恩給官吏恩給法第一八條ハ
差押フルコトヲ得サルヤ當然ナリ
(ハ) 實體法上及ヒ特別法上差押ヲ認許シタル財產權ト雖モ第六百十八條ノ制
限内ニ在ルモノハ之ヲ差押フルコトヲ得ス此制限ハ公益債債務者ノ利益ヲ
保護スルカ爲メニ設ケラレタル制度ナリ故ニ第一ニ債務者ハ合意又ハ抛弃セ
依リテ該制限ヲ排斥スルコトヲ得ス然レトモ實體法上反對ノ明文ナキ以上ハ
此制限内ニ於ケル權利ノ讓渡買入及ヒ之ニ依リテ生スル權利ヲ訴強制執行並
ニ相殺ヲ以テ主張シ得ルヤ言ヲ俟タス第二ニ裁判所ハ職權ヲ以テ調査ヲ爲シ
民事訴訟法第六百十八條ノ制限ニ觸ルモノト認メタマニ以上ハ債權者ノ差押
命令ノ申請ヲ却下セサルヘカラス而シテ差押ヲヘキ債權ニ付キ第六百十八條
ニ規定シタル制限ニ觸ルヤ否ヤノ争フ生シ且フ制限内ニ在ルコト明瞭ナラ
ナルトキハ制限内ニ在ルモノト主張スル當事者即チ債務者ハ舉證責任ノ原則

ニ從ヒテ立證セザルヘカラス又此制限ハ金錢債權ノ差押ノミナラス有體物ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスル債權ノ差押破產的差押及ヒ假差押ノ執行ニ關シテモ亦行ハル(第六一四條第七四八條第七五〇條商法第一〇〇一條然レトニ債務者カ差押フルコト能ハナル財產權行使ノ結果トシテ既ニ受取リタル金錢其他ノ物件ニ關シテハ及ハナルモノトス何トナレハ斯ル物件ハ第五百七十九條ニ基キテ差押フルコトヲ得ルヤ否キヲ定ムヘキモノナレハナリ第六百十八條ノ制限ニ反スル執行裁判所ノ決定ハ五百四十四條ニ基キテ債務者第三債務者及ヒ利害關係アル第三者第六一八條第二参考ヨリ異議ヲ以テ攻撃セラル而シテ差押カ此制限ニ反スル事實ニ基キ第三債務者若クハ利害關係アル第三者ノ爲スヘキ特別ナル異議ノ訴及ヒ第三債務者ニ對スル債權者ノ訴ニ對シ前者カ該事實ニ基ク抗辯ノ提出ハ異議ヲ申出フル禮アルノ故ヲ以テ除外セラレサルモノナリ

第六百十八條ノ規定ニ依リテ差押フルコトヲ得サル債權ノ第一ハ法定ノ養料請求權ナリ法定養料請求權ハ身分法上ノ關係ニ因リ生スル養料請求權ニシテ

如何ナルモノカ之ニ屬スルヤハ民法ノ定ムル所ニ依ル民法第七九〇條第八七九條第八九〇條等而シテ過去ノ養料ノ爲タニスル賠償請求權ハ養料請求權ノ性質フ喪失スルヲ以テ第六百十八條第一號ノ適用ヲ受ケサルヤ當然ナリ其第二ハ債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受ケ且ツ債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メニ必要ナル程度ニ於ケル繼續ノ收入ナリ義捐建設所又ハ第三者ノ慈惠ニ因リテ受クル收入トハ給與者カ給付スヘキ義務ヲ負ハス且ツ反對給付ヲ求メサル第三者ヨリ受クル收入ニシテ債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メニ必要ナル程度ニ於ケル收入トハ債務者ノ從來ノ生活上ノ位置ヲ標準トシテ執行裁判所カ必要ナリト認定シタル收入ナリ隨テ爾後必要ナキニ至リタルトキハ之ニ關スル部分ハ更ニ差押フルコトヲ得此種ノ收入ヲ差押フルコトヲ得ナル理由ハ給付者ノ慈惠ノ目的ヲ空シウセサランメンカ爲メナリ其第三ハ下士兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料ニシテ明治二十三年六月法律第四十五號軍人恩給法明治二十四年十二月法律第四號等ヲ參照スヘシ其第四ハ出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人軍屬ノ職務上ノ收入

ニシテ出陣ノ軍隊トハ宣戰以後ニ於ケル軍隊ニシテ役務ニ服シタル軍艦トハ宣戰以後ニ於ケル軍艦並ニ演習ニ充テタル軍艦ナリ其第五ハ官吏神職僧侶及ヒ教師ノ職務上ノ收入即チ俸給並ニ報酬、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料ニシテ此等ノ事項ニ關シテハ種種ナル特別法アルカ故ニ參照ヲ望ム其第六ハ職工勞役者雇人カ其勞務又ハ役務ノ爲メニ受クノ報酬ナリ而シテ法律ハ債權者ノ利益ヲ保護スル目的ヲ以テ前ニ示シタル第一、第五及ヒ第六ノ場合ニ於テ職務上ノ收入恩給其他ノ收入カ一箇年間ニ三百圓ヲ超過シタルトキハ超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得セシメタリ既ニ差押ヘタル債權ハ既ニ差押ヘタル有體物ト異ニシテ他ノ債權者ノ爲メニ差押フルコトヲ得サルモノニ非ス同一ノ債權ハ漸次ニ數名ノ債權者ノ爲メニ各獨立的ニ第五百九十八條ノ形式ヲ履ミテ差押フルコトヲ得ルハ獨逸民事訴訟法上一點ノ疑ナキ所ニシテ又我民事訴訟法第六百九條第三ノ明文上一點ノ疑ナキ所ナリ而シテ手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ニ關シハ例外トシテ第五百八十六條ヲ適用スヘキモノト信ス獨逸ニ於テ「ガウブ」、「モースキー」民等ノ如キ

多數ノ學者ハ例外トシテ獨逸民事訴訟法第七百二十七條ヲ適用スヘキモノナソト主張スレトモ獨リ「ヘルマン氏ハ此種ノ債權ハ債權トシテ差押ノ目的物タルカ故ニ有價證券ヲ占有スルニ依リテ差押ヲ爲スノ一事ハ有體動產ニ關スル差押ノ規定ノ適用ヲ正當ナラシメスト主張シ以テ反對ニ論決セリ」

(C) 差押以後ノ手續

差押ヘタル債權其他ノ財產權ニ付キ差押債權者ヲシテ滿足ヲ得セシムル政務ヲ取扱フ者ハ執行裁判所ナレトモ其満足ヲ得セシムル手續ハ差押ヘタル財產權ノ種類ニ從ヒテ各同シカラス左ニ之ヲ分説スヘシ

第一 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ニ關スル差押以後ノ手續
此種ノ債權ニ關スル差押以後ノ手續即チ換價ハ總ノ債權ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲シ第六〇〇條乃至第六一三條第六一四條第六一五條第六一七條第六二一條第五百七十二條以下ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スヘキモノニ非ス何トナレハ第六百三條ハ唯差押ノ方法ヲ規定シタルニ止マレハナリ故ニ此種ノ債權

ハ有價證券カ經令無記名ナル場合ニ於テモ第六百條、第六百一條ノ規定ニ從ヒ
ヲ移轉スルコトヲ要ス。是ニ付キ、被付ニ當ニシテモ、其ノ事由ノ原因ノ關係ナリト
第二、金錢ノ支拂ヲ目的トスル債権ニ關スル差押以後ノ手續、
此種ノ債権ニ關スル差押以後ノ手續ハ執行裁判所カ債権者ノ申請ニ因リテ第
六百十三條ノ場合以外ニ於テ差押債権者ノ爲メニ取立又ハ轉付ニ關スル移轉
命令ヲ發スルニアリ(第六〇〇條獨逸舊民事訴訟法第七三六條金錢債権ノ差押ハ
前ニ述ヘタル如ク第三債務者ニ對シ其債権者タル執行債務者ニ支拂ヲ爲スコ
トヲ禁シタルニ止マルヲ以テ第三債務者ハ之カ爲メニ債権者ニ對シ支拂ヲ爲
スノ義務ヲ負フコトナク又差押債権者ハ之カ爲メニ差押ヘタル債権ヲ主張ス
バノ權ヲ有セス是ニ於テア差押債権者カ差押債権ニ付キ満足ヲ享有スルニ尚
ホ特定ノ裁判所ノ行爲ヲ必要トスルハ固ヨリ怪ムニ足ラススル目的ノ爲メニ
スル裁判所ノ行爲ヲ移轉命令ト稱ス有體物ノ強制執行ニ於ケル賣却ト相對シ
且フ法律上差押ト異ナレル別派ノ行爲ナリ(立法上ノ理由)。其の實體ノ問題ハ
債権者ノ移轉命令ヲ求ムル申請ハ或ハ差押ノ完成後或ハ差押命令ノ申請ト同

時ニ爲スコトヲ得第六百三條ノ場合ニ於テハ差押ハ執達吏ノ占有ニ因リテ或
ルモノナルカ故ニ同時ニ申請が事實上不能ニ屬スルヤ旨ヲ缺タス此申請ニ付
キ管轄權ヲ有スル執行裁判所ハ第五四三條申請ヲ正當ト認メタル場合ニ於テ
移轉命令ヲ發ス而シテ債務者ヲ審訊スルト否トハ執行裁判所ノ自由ニ判断ス
ル所ナリ蓋シ債務者ヲ審訊スルハ法律上明文ヲ缺クモ禁止シタルニ非サレ
ナリ移轉命令ハ或ハ單獨ハ或ハ差押命令ト共ニ發スルコトヲ得而シテ轉付命
令ハ差押ノ完成ヲ前提要件ト爲スコトハ第六百條ニ所謂差押ヘタル金錢ノ債
権ナル明文ニ徵シテ明瞭ナリ故ニ前者ノ場合ニ於テ未タ第三債務者ニ對スル
差押命令ノ送達ナキトキハ移轉命令ハ當然無効ニシテ第三債務者ニ對スル差
押命令ノ爾後送達ニ依ヌテ之ヲ補充スルコトヲ得ス後者ノ場合ニ於テハ移轉
命令ハ差押ノ完成ヲ條件トシタル行爲トシテ表ハルモノナリ隨テ該命令
ハ第三債務者ニ對スル差押命令ノ送達ニ因リテ效力ヲ發生ス(第五九八條第三
項執行裁判所ハ職權ヲ以テ移轉命令ヲ第三債務者及ヒ債務者ニ送達セサル)
カラス(第六〇〇條第二項移轉命令ノ效力發生ニ關シテハ獨逸民事訴訟法ノ解

釋トシテ學說三派ニ分レタリ第一説ハ「ラシタ」ガウア「ワガモーリキ」氏等ノ主張スル所ニシテ移轉命令ハ之ヲ債権者ニ交付スケニ因リテ完成シ該命令ヲ第三債務者及ヒ債務者ニ送達スルハ債権者カ取立ヲ爲シ又ハ債権不移轉ニ因リテ生シタル權利ヲ有スル旨ヲ通知スルヲ目的ニ外ナラスト曰ヒガ所公有民ハ債権者ニ對スル送達ヲ以テ「ヘルヤン」民ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ移轉命令ノ完成スルモノナリト曰ヘリ我民事訴訟法ノ解釋トシテハ疑ナキニシモ非スト雖モ同法第六百條第六百一條ニ依リテ推究スレハ移轉命令ハ差押命令ト同シク第三債務者ニ送達スルニ因リテ完成スト論決スルヲ得ヘシ獨逸舊民事訴訟法第七百三十條ハ直接送達主義ヲ採用シタルヲ以テ我民事訴訟法第五百九十八條第二項ノ如ク債権者ニ其送達ヲ爲シタル旨ヲ通知スヘシトノ法文ナシ故ニ獨逸舊民事訴訟法第七百三十六條ニ於テ單ニ第七百三十條第二項ノ規定ハ之ヲ準用スト規定スルモ爲メニ債権者カ移轉命令ノ發セラルタルヤ否ヤラ知ラナル事實ナシ然ルニ我民事訴訟法第六百條第二項ヘ右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用スト明君スルニ止シタルヲ

以テ債権者ニ移轉命令ノ送達ヲ通知スルコトナシ體ヲ法文上債権者ハ移轉命令ノ發セラルコトヲ知ルニ由ナキコトト爲リ立法上甚タ失當タリト認ム然レトモ解釋上第二百四十五條第三項ニ依リ債権者ニモ送達スヘキモノトシテ候點ヲ補フコトヲ得ヘシ移轉命令ニ對シテハ債務者及ヒ第三債務者カ第五百四十四條及ヒ第五百五十八條ノ規定ニ從ヒテ不服ヲ申立フルコトヲ得ルヤ誠ヲエタス

執行裁判所カ移轉命令ノ申請ヲ不當ナリト認メタルトキハ決定ヲ以テ之ヲ却下ス該決定ハ職権ヲ以テ債権者ニ送達セサルヘカラス何トナレハ此債権者ハ第五百五十八條及ヒ第四百六十六條第二項ニ基キテ即時抗告ヲ以テ攻撃スルユトヲ得ヘケレハナリ有體動産ノ差押ニ於テ執達吏カ債務者ニ代リテ差押物ヲ賣却スルト同シク執行裁判所ハ金錢債権ノ差押ニ於テ債務者ニ代リテ差押ヘタル債権ヲ債権者ニ移轉ス之ヲ換言スレハ移轉命令ハ債務者ノ權利行爲ノ結果トシテ生スル所ト同一ノ效力ヲ生ス然レトモ差押ヘタル債権カ手形其書裏書ヲ以テ讓渡スルコトヲ得ル證券ニ因レル債権ナルトキハ移轉命令ハ裏書

讓渡ノ效力ヲ生セサルベシ何トナレハ移轉命令ハ債権者ノ爲スニ差押債権ノ取立又ハ差押債権ノ讓渡ノ效力アルニ止マレハナリ移轉命令ハ債権者ニ其満足ヲ享有セシムルノ目的ニテ證セラル故ニ差押債権ノ履行ヲ擔保スル附帯ノ權利保證抵當等モ亦其ニ移轉スルモノト謂スベシ又移轉セテバタ列差押債権ノ主張ニ關シ證書ヲ必要ト爲ス場合ニ於テハ債務者ハ之ヲ差押債権者ニ引渡スヘキ義務ヲ負フ何トナレハ證書並ニ之ヲ占有スル權利ハ移轉セラレタル差押債権ノ從物トシテ移轉セラレタルモノナレハナリ而モテ債務者カ任意ニ其義務ヲ履行セタムトキハ特別ナル債務名義ヲ要セシムテ強制執行ノ方法ヲ以テ該證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得第七三〇條獨逸民事訴訟法學者例ヘ「ガウブ」^{タウブルモースキ}民等ハ債務者所持ノ證書取上ヲ目的トスル強制執行ノ債務名義ハ移轉命令其有ノタリ又執行力アル正本トシカレハ獨逸民事訴訟法第六百七十一條我民事訴訟法第五二八條ニ従ヒテ遅延シ且ツ引渡スヘキ義務アル證書ヲ表示シタル移轉命令ノ正本ト結合シタル從前ノ債務名義ノ執行力アル正本ヲ以テ足レリトシ特能引渡義務ヲ表示シタル特別ナル執行力アリ

正本ヲ必要トセス而シテ「ガウブ」氏ハ尙ホ債権者ハ之カ爲メニ移轉命令ヲ求ムル申請ニ於テ若クハ此命令中ニ引渡スヘキ證書ノ表示ナキ場合ニ於テ之ヲ補充スル申請ニ於テ可成的引渡スヘキ證書ヲ確實ニ表示スヘキヨトヲ要スル旨ヲ明言シタリ又「ブランク」氏ハ債権者カ移轉セラレタル債権ヲ主張スルカ爲メニ證書ノ占有ヲ必要ト爲ス場合ニ於テハ移轉命令ハ債務者ニ對シテ差押債権ニ關スル證書ヲ債権者ニ引渡スヘキ旨ノ執行裁判所ノ命令ヲ認メタルモノナリ是ヲ以テ債務者カ證書引渡ニ關スル法定義務第六〇六條ヲ任意ニ履行セタルトキハ債権者ハ引渡スヘキ證書ヲ表示シ且ツ移轉命令ト結合シタル執行裁判所ノ命令ヲ得以テニ基キ執達處助人力ノ下ニ強制執行ヲ爲ス第七三〇條故ニ該命令カ債務名義ニシテ(第五五九條)移轉命令ハ引渡義務ヲ認メタルニ止マリテ訴訟費用ノ負擔ヲ言渡シタル裁判所ト同シタル債務名義ト爲テ又執行文ノ附記ハ之ヲ必要トセス從前ノ債務名義及ヒ執行裁判所ノ命令トシテ移轉命令ヲ提出シ及ヒ其送達ヲ證明スルヲ以テ足レヌトストヨヘリ而シテ此種之強制執行ノ開始ハ民事訴訟法第七百三十條第五百二十八條乃至第五百三十條

ニ選擇スヘキモノナルヤ學者間ニ疑ナキ所ナリトモ我民事訴訟法第六百六條ハ「差押命令ニ基キ」ト明言シ恰モ此命令ヲ以テ債務者所持ノ證書取上ヲ目的トル強制執行ノ債務名義ト認メタルカ如シ然レトモ差押命令ハ其内容トシテ前述ノ如ク第三債務者ニ對シ債務者ニ爲ス支拂ノ禁止ト債務者ニ對シ處分ヲ爲スヘカラナル旨ノ命令ト包含スルモノニ外ナラナルヲ以テ之ノ債務者所持ノ證書取上ヲ目的トル強制執行ノ債務名義ト爲スハ法理上失當ニシテ又實際上不能ナリ(取上タヘキ證書ノ表示ナキヲ以テ故ニ余輩ハ論理解釋上該差押命令ハ移轉命令ニシテ前ニ述ヘタルガウブ氏ノ説明スル如ク執行スベキモノト信ス)

引渡スヘキ證書カ第三者ノ占有ニ在リテ且フ其第三者カ引渡フ承諾セナルトキハ第三者ニ對シ民事訴訟法第六百六條ノ規定ニ基キテ執行ヲ爲スコトヲ得ス(第六〇六條債務者ヨリ取上タ)唯債權者ハ第三者ニ對シテ訴ヲ以テ證書ノ引渡フ求ムル債務者ノ請求權ヲ第六百一條第六百二條ニ規定シタル移轉命令ニ基キ之ヲ換言スレバ第七百三十二條ニ從ヒテ此請求權ニ關スル特別ノ移轉命令

ヲ要セルシテ主張スルコトヲ得何トナレハ差押債權ヲ移轉ト共ニ其從物トシテ該請求權カ移轉セラレタルヲ以テナラチ皆大驚異辭を甚々猶矣セシム
移轉命令ハ之ヲ分ナシテ取立命令ヒト轉付命令ノ二種ス債權者ハ此二者中ノ一ヲ選擇スルノ権利ヲ有ス移轉命令ノ申請ニ於テ債權者ノ選擇シタルモノノ明示ナキトキハ取立命令ヲ選擇シタルモノト認定スルヲ正當トス何トナシハ取立命令ハ差押債權者ニ對シ毫モ危險ヲ被ラシダガシ換價方法ナルヲ以テ差押債權者ノ意思ニ適シタルモノト看做スコトヲ得ヘケレハナリ而シテ債權者ハ取立命令ニ因リテ得タル権利ヲ拋棄シテ爾後轉付命令ヲ請求スルコトヲ得然レトモ反對ニ轉付命令ニ因リテ得タル権利ヲ拋棄シテ取立命令ヲ請求スル事トヲ得ス(第六一二條)何トナレバ後者ノ場合ニ於テ轉付命令ニ因リテ移轉シタル債權ハ取立スヘキ債務者ノ債權タル性質ヲ有セタレハナリ又前者ノ場合ニ於テハ債權者ノ債權ハ完全ナル済清ヲ受タルモナリ有效性は存在スルモノナアツ以テ債權者ハ傳持ミテヨリ其選擇シタル強制執行ノ方法ヲ棄テ他ノ方法ヲ採ルコトヲ得ニシムナリ同ニ之理由ニ因リ差押債權亦拋棄スルコトヲ得

此場合ニ於テ假取立命令ヲ因用テ取得シタ所權利ヲ抛弃ヲ包含ス何トナレ
差押權取立命令ノ基礎ナシハナリ取立ノ爲法に取得シタ所權利ヲ抛弃ハ確實
ヲ期スルカ爲本ニ届書ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲ス抛弃シ届書ヲ債務者ニ送
達スル事因リ之效力ヲ生次第三債務者ニ對タル疎遠ハ訓示的法意は塞タルノ
ト知ルヘシ抛弃ニ取立命令ノ效力差押權ヲ抛弃ヘ差押權之效力ヲ喪失セシム之
カ爲メニ取立命令ヲ取消スノ必要ナシ然レモ第三債務者爲メ無之ヲ取消
スコトハ法律ノ據出タル所ナリ又抛弃ハ何時ニラセ之ヲ爲メニトテ得故ニ債
權者タク第三債務者ニ對シテ起訴ヲ起ル後于テタル之ヲ爲スコトヲ得唯此場合
于テハ債權者之代位權消滅ノ結果トシテ爾後債權者カ該訴訟ヲ執行スルロ
トト爲ルノミ(第十一為〇條)而猶之抛弃以前ニテ本既ニ發生タル債務者ノ損害
賠償請求權第六章一條ハ抛弃者爲之而妨タル力外抛弃タル執行ニ關スル
費用ノ負擔者ハ第七十二條及び第五百五十四條ニ從ヒテ之ヲ定ム債權者ハ此
ノ如ク取立命令又ハ轉付命令ヲ成ルモノ付キ選擇權ヲ有ス然レトモ第六百七
條ノ場合ニ於テ他例外トシテ第三債務者ニ債務額ヲ供託シタルノ效力ノミ

又有スル支拂ハシムモノノ效力ニ非ス)取立命令ヲ求ムルノ權アルノミ何トナレ
此場合ニ於ケル強制執行ノ債權者ニ抛弃ヲ得セシム目的ヲ有スルモ清モ非サレハナリ(第五
アリ即チ債權上ノ満足ヲ得セリムノイ目的ヲ有スルモ清モ非サレハナリ)第五
○五條第二項、第五七四條第二項第五七九條手續上ノ取立命令及第三條之前
移轉命令ハ取立命令及ヒ轉付命令ノ二者ノ所ニ由ハ前手述ヘタル所ナリ
(甲)取立命令(金以整向未疎遠而ノ過誤を認ム時或未疎遠者ニ便シ簡易化シテ之解
取立命令トハ執行裁判所カ債務者ニ代リテ債權者清對セし債務者其代リテ其有
スル差押債權ヲ執行シテ自己ノ債權ノ満足ニ供スノ目的ヲ以テ第三債務者
ヨリ取立タルノ授權モ外ナクス(第六〇〇條第一項)故ニ債務者ハ有體動產ノ差
押ニシケルト同シタ依然移轉セラレタル債權ノ主體ニシテ又債權者ハ債務者
ノ法定代理人ナシテ之債務者意思ノ有無ニ關係ナシカ故ニ取立ヲタガ金錢ヲ
自己ノ満足ニ供スルノ爲メノ權限另有ス(有體動產ノ強制執行並於之ハ執達處
カ債權者ノ法定代理人ルシテ其有無ノ權限ヲ行使シ債權ノ強制執行並於之ハ執達處
債權者其者カ其有スル權限ヲ行使ス者差異無カ)之實意スヘシ是ヲ以テ取立

命令ノ場合ニ於ケル各利害關係人ヲ法律上之地位ヲ當ニスレバ
一財債務者が取立命令以後ト雖ニ差押並因リテ發生タル處分無能力ヲ制限
ヲ以テ差押債權ノ主體タルヨリテ妨ヶラレス體ヲ取立命令以後ニ於ケル差押
債權ヲ尙ほ債務者ノ財産ニ屬ス故ニ債務者間ニ差押債權者ヲ權利ヲ侵害セシム
範圍内ニ於テ取立命令以後差押債權ヲ處分シ讓渡又行使第正債權者ノ被差押
於テ届出ヲ爲シ債權確認ヲ訴ヲ提起スルカ如キ(原州ノ實業銀行ト支拂ヲ請
求シ債務ノ免除延期等ノ如キ行為ヲ爲ス)又第三債務者ヲ破滅ニ於
テハ差押債權者ト共同謀ル非ヌシハ該決算書荷使ノル事事得失而シテ債
務者ハ取立命令以後尙ホ債務額ノ供託ヲ第三債務者ニ對シ請求スルコトヲ得
ルヤ否ヤハ學者ノ争フ所ニシテウツブ民ハ積極的ニ該決算書ヲランダ民ハ消極
的ニ該決算書ヲ子廢ヒ後說ヲ正當ト認ム何トカレハ取立命令以後ニ於テハ唯
リ債權者ノミカ債務者ノ鑑定代理人トソシテ支拂並ニ供託ヲ求ムル訴ヲ爲シ
權ヲ有シ又義務ヲ負ヒ且適任者ナシハナガ證書ヲ占有スル易故ニ第六〇六條
第六〇七條第六一〇條

二言債権者より債務者ノ法定代理人人トシテ自己ノ満足ヲ全ウスルカ爲ニシ差押
債権ノ取立ヲ爲ス故ニ債権者ハ之カ爲ヨリ必要ナル權利行爲殊ニ支拂ノ受領
支拂リ求ムル訴ノ提起債務額ノ供託又求ムル訴ノ提起確認又訴ノ提起假差押
ノ申請第三債務者ノ破産ニ於ケル債権ノ届出債務者ノ第三債務者ニ對シ提起
シタル繁局訴訟ニ於ケル從參加ノ申請差押債権カ債務名義ヲ有シタル場合ニ
於テ債務者ノ承認人トシテ自己ノ爲メニスル執行力アル正本ノ付與又申請ス
ルノ權アリ債権者及ヒ債務者ハ共同シテ第三債務者ニ對シ差押債権ノ確認ノ
如キ訴ノ提起スルコトヲ得此場合ニ於ケル訴訟ハ民事訴訟法第五十條ノ規定
シタル合一定的確定訴訟ノニ非サルヤ言説タス然ヒトキ債権者ハ自己ノ満
足ヲ全クスルカ爲メニ必要ナル權利行爲又爲其ノ權アルカ又ミ故ニ債権者ハ債
務者ニ代リテ移轉セラレタル債権ヲ譲渡シ之ニ關セ利害免除延期ヲ爲スカ如
キ處分權ナシ(破産手續ニ於ケル破産債権者ノ議決權ハ債権者及ヒ債務者共開
シテ行使スルニトヲ得ガニ一方ノ單獨大所行使ハ他又一方ノ利益又害ハ無
シルベシ)

取立命令ハ債権者ニ外部即チ第三債務者ニ對スル制限的代理權ヲ授與スルノ
 ミナラス内部即チ債務者ニ對シテ自己ノ權限ノ正當ナリ行使せ爲ヌキ債務
 フ負ハシム故ニ債権者ハ自己ニ移轉セラレタル債務ヲ適當ナリ注意ヲ以テ裁
 判上又ハ必要ナル場合ニハ裁判外ニ取立ヲ第三債務者ニ對シ訴訟ヲ起シタルト
 キハ此訴訟ヲ債務者ニ告知シ第六十一〇條且ツ此義務ノ故意又ハ過失ニ基ク怠
 慢ヨリ債務者ニ對シテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責任ヲ負フ債権者カ第三債務者ニ
 對シ提起シタル訴訟ヲ債務者ニ告知スルニハ其訴訟執行的ナルト確認
 的ナシトニ拘ラス第五十九條以下ノ規定ニ從ハサムヲ得ニ又訴訟ヲ告知ヘ債
 権者アシテ債権者ニ對シ訴訟ヲ不十分ニ爲シタリトノ抗辯ヲ提出スルコトヲ
 得ナラシム(第五七條第六一條面シテ訴訟ヲ告知セラレタル債務者ハ其訴訟ニ
 参加スルコトヲ得此場合ニ於テハ債務者ハ從參加入ト爲ルコト訴訟ヲ告知オ
 メンテ參加シタル場合ト同様ナリ參加ノ效力カ第五十五條及ヒ第六十一條ノ
 規定ニ從ヒテ之ヲ定ム債権者カ第三債務者ニ對シテ提起シタル訴訟ヲ債務者
 ニ告知セサルトキハ債務者ハ訴訟ヲ不十分ナル實施ノ爲シニ債務者ニ對シテ

生シタル損害ヲ賠償セナルヘカラス而シテ此損害賠償請求權ハ強制執行中債
 務者ノ爲メニ新ニ成立シタル權利ナガリヲ以テ執行スヘキ債權ナ相殺シト歟
 スル債務者ハ第五百四十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ然レ
 ドモ移轉セラレタル債權ノ不成立又ハ履行不能等ノ原因ニ基キ滿足ヲ享有シ
 能ハナリシ債権者ハ債務者ノ有スル他ノ財產ニ關シ強制執行ヲ施行スルコト
 ヲ得又債権者カ第三債務者ニ對シ提起シタル訴訟ノ費用ハ債務者ニ對シテハ
 強制執行ノ費用ノ一部分ニ外ナラナルヲ以テ債務者ニ對スル從來ノ債務名義
 ニ基キテ取立ツルコトヲ得債権者ハ債務者カ内國ニ在リテ住所ノ知レタル場
 合ニ非ナルトキニ於テハ訴訟ヲ告知スルノ義務ナシ何トナレハ債務者カ外國
 ニ在ルヲ以テ外國ニ於テスル送達又ハ住所ノ知レナルカ爲メニ公示送達ヲ要
 スル場合ニ於テ訴訟ヲ告知スルハ債権者ニ對シ甚タ困難ナレハナリ然レトモ
 之カ爲メニ訴訟告知ノ效力ヲ發生スルモノト誤解スヘカラス債務者ハ債権者
 ニ對シテ訴訟ヲ不十分ニ爲ナレタムコトヲ主張スルコトヲ得ヘシ又債権者ハ訴
 訟ヲ進ミテ訴訟ノ告知ヲ爲スコト能ハナリモノト誤解スヘカラス債務者ハ訴

証告知ノ義務ナキニモ拘ラス之ヲ爲シタルトキハ訴訟告知ノ效力ヲ生スルヤ
當然ナリ第三債務者ハ債務者ノ参加ヲ妨ケ又訴訟ノ告知ナキヲ理由トシテ自
己ノ爲メニ異議ヲ申立タルノ權ナシ然レトモ同一ノ請求ノ爲メニ債権者及ヒ
債務者ニ對シテ二ノ訴訟ヲ爲スノ義務ナシ訴訟告知ノ有無ニ拘ラス債権者ニ
對シテ言渡ナレタル判決ノ確定ハ債務者ニ對シテモ亦效力アリ何トナレハ債
権者ハ債務者ノ法定代理人ナレハナリ債権者カ取立ノ爲メニ移轉セラレタル
債権ノ行用ハ裁判上及ヒ裁判外(手形ノ適時ノ呈示、拒絶證書ノ作成等)ノ行用並
ニ強制執行ヲ包含ス債務者ハ債権者カ取立ノ爲メニ移轉セラレタル債権ノ行
用ヲ怠リタルカ爲メニ生シタル損害賠償請求權ヲ第五百四十五條ニ從ヒテ或
ハ獨立ノ訴ヲ以テ債権者ニ對シテ主張スルコトヲ得損害ノ存在及ヒ數額ハ債
務者ノ立證スヘキ所ニシテ債務者カ移轉命令以後第三債務者ニ對シ債務額供
託ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルノ事實ハ債権者ノ責任ニ影響スル所ナシ
三 第三債務者ハ取立命令アルニモ拘ラス依然債務者タリ而シテ債
務ノ差押ハ第三債務者ニ對シテ債務額ヲ債務者ニ支拂フコトヲ禁シタリ故ニ

第三債務者ハ爾後債務者ニ對シテ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又爲スヘカラス隨テ
債務者ヨリ差押債権者ニ對スル債務ノ履行ヲ強制セラルコトナシ是ヲ以テ
第三債務者ハ債務者ノ差押債権ニ關スル支拂ノ要求ニ對シ専分能カ欠候ノ理
由ニ基ク異議ヲ申立ツルコトヲ得債務者カ差押以後支拂ヲ求ムル訴ヲ提起シ
タルトキハ原告タルノ資格ナキ旨ニ實體上ノ抗辯ヲ提出シ差押以降ニ繫屬シ
タル支拂ヲ求ムル訴訟ヲ差押以後ニ於テ續行スヘキ旨ヲ申立タタルトキハ前
示抗辯ヲ提出シテ債務者カ支拂ヲ求ムル訴ノ申立ヲ供託ヲ求ムル訴ノ申立ニ
滅縮スルニ非スンヘ訴ヲ却下セシムコトヲ得ヘシ又債務者カ差押以前ニ
於テ既ニ確定シ且フ差押債権ニ付キ第三債務者ニ對シテ負擔ヲ言渡シタル判
決ニ基キ差押以後強制執行ヲ爲ストキハ第五百四十五條ニ基ク異議ノ訴ヲ提
起スルコトヲ得ルハ前ニ述ヘタル所ナリ此法則ハ取立ノ爲メニスル移轉命令
ニ依リテ前ニ説明シタルカ如キ些少ノ變更ヲ生シ債務者ハ以後債権者カ法定
代理人トシテ債務額ノ供託ヲ求ムル訴ヲ提起シ又之ヲ續行スルニトテ耐忍セ
サルヘカラス隨テ第三債務者ニ對シテ此變更ヨリ生スル異議ヲ主張

差押ハ第三債務者ト債權者トノ關係ニ於テ何等ノ實體的法律關係ナ生スルモ
ノニ非ス唯第六百九條ニ規定シタル陳述ヲ爲スノ義務アルノミ取立ノ爲ミニ
スル移轉命令モ亦然リ然レトモ第三債務者ハ訴訟的法律關係トシテ裁判上又
ハ裁判外ニ債權者カ債務者ノ法定代理人トシテ其債權ヲ差押當時ニ存在シ且
ツ債務者ノ主張スルコトヲ得ルモノナル以上ハ自己ノ満足ニ供スル目的ヲ以
テ主張スルコトヲ承認セザルヘカラス又債權者ハ債務者ノ法定代理人トシテ
第三債務者ニ對シ繫屬シタル訴訟ヲ續行スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ債
權者ハ將來ニ向テ訴訟ノ實施ヲ爲シ過去ニ向テ即チ差押以後取立命令以前ニ
於テ拋棄認諾、自白等ノ如キ自己ニ不利益ナル債務者ノ積極的權利行為ヲ自己
ニ對シテ效力ナキモノトシテ取扱フコトヲ得然レトモ差押以後取立命令以前
ニ於テ債務者ノ責ニ任スヘキ懈怠ノ結果ハ訴訟ヲ續行スル債權者ニ對シテモ
亦效力アリ債權者ハ差押以後取立命令以前ニ從參加人トシテ訴訟ニ干與シ斯
ル不利益ヲ避タルコトヲ得ヘシ債權者ハ債務者ノ法定代理人トシテ取立權ヲ

有スルモ債務者ノ有スル以外ノ權利ヲ有スルモノニ非ス故ニ第三債務者ハ自
己ノ爲ミニ差押以前ニ於テ債務者ニ對シテ成立シタル總ノ抗辯例ヘハ相殺
ノ如キ實體上ノ抗辯權利拘束訴訟費用未済ノ抗辯ノ如キ訴訟上ノ抗辯ヲ提出
スルコトヲ得然レトモ債權者ノ權利ニ對シテ債務者ノ爲ミニ成立シタル抗辯
ハ之ヲ主張スルコトヲ得ス何トナレハ後者ハ債務者其者カ第五百四十五條ノ
規定ニ從ヒテ主張スヘキモノナレハナリ但シ差押並ニ取立命令ノ適法及ヒ效
力ノ有無ニ關スル抗辯ハ第三債務者ノ固有ノ抗辯トシテ主張スルコトヲ得ル
ヤ當然ナリ(第三債務者ト債權者トノ關係ニ取立命令ノ意義及ヒ利害關係入ツ法
律上ノ地位)

債權者ハ此取立權ヲ有效ニ行使スルカ爲ミニ債務者ニ對シテ差押債權ノ狀態
ニ關シテ必要ナル通知ヲ求メ又債務者及ヒ占有者タル第三者ニ對シ差押債權
ニ關スル證書ノ引渡フ強制スルコトヲ得ヘシ又第三債務者ハ債權者ノ利益ノ
爲ミニ差押命令ノ送達ニ因リテ(移轉命令ニ非ス)之ヨリ七日ノ期間内ニ法定事項ヲ通知スヘキ義務ヲ負フ第六〇九條該義務ハ證言義務ニ歸納スルモノニ

シテ債権者ノ爲ニ差押債権ノ法律上ノ狀態ニ偏スル必要ナル説明アリヘ且
ツ之ト共ニ第六百九條第六百一十五第六百十條乃至第六百十三條ノ規定ニ基ク處
分ノ基礎ト爲ルモノタリ(立法上ノ理由)。第三債務者ヲシテ此義務ヲ履行セシムルニカニノ要件アリ其第一ヘ第三債務
者カ債権者ノ求ニ因リテ第六百九條第一號乃至第三號ニ表示シタル事項ヲ陳
述スヘキコトヲ催告セラレタルヲ要ス此催告ハ差押命令ノ送達ニ際シテ之ヲ
爲シ且ツ送達證書ニ於ケル記載ニ依リテ確認セラレタルヘカラス然ラシテハ
催告ノ效ナシ債権者ハ此目的ノ爲メニ執行裁判所ニ申立ヲ爲ス其第二ハ催告
ハ總テ第六百九條第一號乃至第三號ニ規定シタル事項ヲ包含セサルヘカラス
故ニ其一事項ニ付キ制限セヨレタル催告ハ第三債務者ノ義務ヲ完全ニ履行セ
シムルニ足ラス第六百九條第一號ハ裁判外ノ自白ヲ求ムニ在リ第二號ハ差
押債権者カ差押債権ニ付キ直接ニ利害關係アル債権者ヲ認識スルノ利益アル
カ爲メナリ第三號ハ第六百二十一條ノ手續ニ依ラシムル必要アルカ爲メナリ
而シテ配當手續カ既ニ開始セラレ且ツ執行裁判所カ差押債権ニ付キ取扱ヲ爲

スニ至リタルトキハ第三號ノ債務ノ履行トシテ裁判所ノ記録ニ基キ其旨ヲ指
示スルヲ以テ足ル(要件)。第三債務者ハ此要件ノ備リタル場合ニ於テハ七日ノ期間内ニ直接ニ債権者ニ
對シ又ハ間接ニ其代理人タル執達吏ニ對シ書面上ノ陳述ヲ爲スヘシ書面上ノ
陳述ヲ爲シテ要スルハ確實ヲ期スルカ爲メナリ第三債務者カ其義務ヲ履行セ
サルトキハ之カ爲メニ生シタル損害殊ニ他ノ執行方法ノ消滅ニ因ル損害差押
債権ニ付キ爲シタル無益ナル訴訟費用ヲ賠償セサルヘカラス(第三者ノ通知義
務)。取立命令ノ範囲ハ原則トシテハ差押債権全額ニ渉ルラ原则トス是レ分割辨濟
ノ努力ヲ節略スルカ爲メナリ而シテ強制執行ハ債権者ニ正當ナル満足ヲ得セ
シムルニ止マルヲ以テ差押債権者ハ取立テタル金額ニ付キ正當ナル満足ヲ得
タル後尚ホ剩餘額アリタルトキハ之ヲ債務者ニ返済スヘキヤ當然ナリ然レト
モ法律ハ債務者ノ爲メニ其申立ニ因リテ差押債権者ヲ審訊シテ利害關係アル
カ故ニ差押債権額ヲ其要求額アリニ制限シ其超過額ノ處分殊ニ取立ヲ債務者ニ

許コトヲ得セシメタリ此制限ニ關スル許可ハ第三債務者及ヒ債権者ニ通知スヘ
ク又制限内ノ部分ニ限リ他ノ債権者カ配當要求ヲ爲スコトヲ得テノノ效力
フ生ス是レ差押債権者ノ利益保護ノ爲メニ差押配當主義ノ一例外設ケタル
ナリ(取立命令ノ範圍) 差押債権者ハ差押債権ノ換價方法トシテ執達吏ト同シク自己ノ取立權ヲ行使
シ差押債権ノ換價ハ強制執行上ノ滿足ヲ享有スルカ爲メニ金錢ノ調達ヲ目的
トスル行為ナリ故ニ差押債権者ハ第三債務者ニ對シ裁判外ニ於テ差押債権ノ
支拂ヲ求メ或ハ裁判上ニ於テ即チ訴ヲ提起シ若クハ既ニ第三債務者ト債務者
トノ間に於テ差押以前ニ繫属シタル訴訟ヲ續行シテ或ハ第三債務者ト債務者
トノ間に於ケル訴訟ノ結果トシテ言渡サレタル終局判決ニ關スル自己ノ氏名
ヲ表示シタル執行力アル正本ヲ付與セシメ以テ差押債権ノ支拂ヲ強制ス而シ
テ債権全額カ差押ヘラレタルトキハ差押債権者ハ其債権並ニ費用(第五六四條)
ノ完済ニ必要ナル部分ノミニ付キ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘシ然レモ債権額
ノ部分ノミカ差押ニ係リタルトキハ移轉セラレタル此部合ニ關シテノミ支拂

ヲ求ムルコトヲ得ヘシ但シ前者ヲ舊合ニ於テハ債権者カ執行上ノ滿足ヲ享有
スルニ至ルマテ差押債権ノ存續スルコトハ疑ナキ所ナリ差押債権者ハ通則トシ
テ第三債務者ニ對シ自己ニ支拂ヲ爲シ又變則トシテ第五百五條ノ場合ニ於テ
ハ供託所ニ供託ヲ爲スコトヲボムルコトヲ得後者ノ舊合ニ於テハ債権者ハ供
託金額ノ權利者ニシテ差押債権者ハ其債権ノ滿足ヲ享有スルマテ差押債権ヲ有
スベニ過キス差押債権者ハ第三債務者ヨリ支拂ヘレタル金錢ヲ自己ノ權利ニ
歸セシメタルコトニ因リテ執行上ノ滿足ヲ享有ス此觀念ニハニノ方面アルコ
トニ注意セサルヘカラス差押債権者ハ債務者ノ代理人トシテ第三債務者ヨリ
金錢ヲ受取リ且ツ之ニ因リテ第三債務者カ債務者ニ對シテ負ヒタル義務ヲ消
滅セシメ同時ニ差押債権者ハ其受領シタル金錢ヲ自己ノ權利ニ歸セシム且ツ
之ニ因リテ自己ノ債権ヲ消滅セシムルモノタリ斯ル觀念ニ基キ吾人ハ差押債
権者カ第三債務者ヨリ支拂ヘレタル金錢ヲ受取リタルコトカ債務者カ支拂ト
同視スルコトヲ解スルヲ得ヘシ差押債権者ハ取立ヲ爲シタル旨ヲ執行裁判所
ニ届出テナルヘカラス第六〇八條はレ配當請求ノ能否ニ關スル時期ヲ確定シ

第六二〇條第一項又執行裁判所ヲシテ剩餘金等ニ付キ適當ノ處分債務者ニ返還スルカ如キヲ爲スヲ得キシムルカ爲マナリ(取立權ノ行使)取立費用ハ執行費用ニ屬ス(第五五五條故ニ取立ヲタル金錢ヨリ之ヲ取立フ)モナリ然レトモ債權者カ不必要ナル費用ヲ執行費用トシテ取立ヲタル時モ債務者ハ強制執行終局以前於アハ第五百四十五條ニ基キ此費用額ヲ差押債權者ノ要求額ヨリ控除スヘキ旨ノ訴ヲ提起シ又強制執行終局以後ハ不當利得ニ基ク訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ(取立費用ハ執行費用トシテ取立ヲタル時モ(乙)轉付命令)

轉付命令トハ執行裁判所カ差押債權者ノ金錢債權ノ満足ヲ得セシムルカ爲メニ第三債務者ニ對シテ債務者ノ有スル債權ヲ差押債權者ノ財產ニ移轉スルモノナリ故ニ轉付命令ハ其目的ニ基ク必要上債權ノ讓渡ニ類似シ且ツ民事訴訟法ノ規定及ヒ立法上ノ目的ニ從ヒテ定マルヘキ特種ナル債權移轉ノ一ノ形式ナリ隨テ債權譲渡ニ關スル民法上ノ法則ハ當然適用セラルルモノニ非ス

是ヲ以テ轉付命令ノ場合ニ於ケル各利害關係人ノ法律上ノ地位ヲ略言スレハ
 (差押以後轉付命令以前ニ於テハ各利害關係人ハ前ニ述ヘタルカ如キ地位ニ在
 フ又債權者ハ前ニ述ヘタルカ如ク第六百九條ニ規定シタル陳述ヲ求ムル申立
 フ又スコトヲ得ヘシ(債務者ハ轉付セラレタル債權ノ主體タルコトヲ止ム故
 ニ轉付命令以後此債權ニ關スル債務者ノ總テノ處分ハ差押債權者及ヒ第三者
 ニ對シテ法律上效力ヲ生セヌ又債務者ハ此債權ニ付キ訴訟ヲ爲シ若クハ既ニ
 局屬シタル訴訟ヲ執行スルノ權限ヲ失フ(2)差押債權者ハ轉付命令ニ因リテ移
 轉セラレタル債權ノ主體ト爲ル故ニ債權者ハ轉付命令以後此債權ヲ自由ニ處
 分スルコトヲ得唯第三債務者ニ對シテ起訴スルニ至リタルトキハ債務者ニ對
 シテ其訴訟ヲ告知セナルヘカラス(第六一〇條蓋シ轉付命令ハ差押債權ノ存ス
 ル限ニ於テ債務者カ辨濟ヲ爲シタルノ效力アルカ故ニ債務者ハ其債權ノ存
 在ヲ立證スルノ利益ヲ有スレバナリ而シテ債權者カ債務者ニ告知スルコトヲ
 念リ且ツ差押債權ノ不存在ノ爲メニ敗訴シ爲メニ他ノ方法ニ於ケル強制執行
 ナ爲シタル場合ニ於テハ債務者ハ差押債權ノ有效ニ存在シタル旨ヲ主張シ隨

テ債権者ハ強制執行上ノ満足ヲ得タルモノナリトシテ第五百四十五條ノ訴ア
提起スルコトヲ得ヘシ其他ハ前述ノ説明ヲ参考スヘシ從ダル権利ハ轉付命令
ト共ニ差押債権者ニ當然移轉ス(3)第三債務者ハ轉付命令ト共ニ差押債権者ニ
對シ從來債務者ニ對シテ有シタル法律上ノ地位ヲ有ス故ニ第三債務者ト一方
ニ於テ差押債権者ヲ自己ノ債権者ト認ムヘキ義務ヲ負リ他ノ一方于テハ債務者ニ對シテ有スル總テノ抗辯ヲ差押債権者ニ對抗スル權ヲ有ス是ヲ以テ差
押債権者カ移轉セラレタル債権ノ主體トテ第三債務者ト債務者トノ間ニ於
テ繫屬シタル訴訟ヲ續行セナルヲ得ス轉付命令ノ意義及ヒ利害關係人ノ法律
上ノ地位轉付命令ハ唯券面額即チ移轉セラルヘキ債権カ差押債権者ニ享有セ
シムヘキ實在的債額ニ非ナル名義上ノ債額ニテ行ヘル且ツ差押債権ヨリ之ニ關
スル特別ノ申立アルヲ要ス(前述ノ説明參考而シテ券面額カ差押債権者ノ要求
額ヨリ執行費用ヲ包含ス)大ナルトキハ之ニ適當シタル券面額ノ一部分ノミヲ
轉付スルコトヲ要ス隨テ差押債権ノ一部分ハ轉付命令ニ因リテ債権者ニ移轉
シ他ノ一部分ハ依然債権者タル債務者ニ關スル二箇ノ債権は分割セラルルノ

結果ヲ生ス定期金請求ノ如キ元本的券面額ヲキ債権ニ認ムテハ各定期金ニ付
テノ轉付命令ヲ發スルコトヲ得ルハ當然ナリ然レトモ當事者ノ同意ニ因リテ
定マルヘキ返還額又ハ利息割引ニ因レル元本額ニテ此種之債権ニ付クノ轉付
命令ヲ發スルコトヲ得ヘシ其他ハ唯第六百十三條ニ基キテ換價スルコトヲ得
ルニ止マレリ(轉付命令ノ範圍(第六〇〇條第六〇一條券面額ニテ)差押債権者ハ轉付
命令アルニ因リテ強制執行上ノ満足ヲ享有スルモノトス此效力ハ轉付命令ヲ
第三債務者ニ送達スルニ因リテ發生タ前述ノ説明参考第三債務者ノ支拂資力
ノ有無ニ關セサルナリ隨テ債権者ハ轉付セラレタル債権ノ實行ニ於ケル危險
ヲ負擔スルモノト謂フハシテ是以テ債権者ハ此債権上ノ満足ヲ享有スルコト
能ハナルヲ理由トシテ債務者ニ對シ何等ノ求債權ヲ行フコトヲ得ス然レトモ
斯ル效力ノ發生ニハ轉付セラレタル債権カ其轉付ノ當時ニ於テ存在シタルモ
トヲ前提要件トス何トナレハ轉付ノ當時ニ存在セサル債権ハ之ヲ轉付スルニ
由ナケレハナリ故ニ轉付命令ノ目的タル債権カ不成立又ハ消滅ニ因リテ轉付
ノ當時既ニ存セザリシトキハ差押債権者ノ權利ハ強制執行上ノ滿足ニ因リテ

消滅シタリト謂フコト能ハス故ニ他ノ目的物ニ對シ強制執行ヲ幾行スルコト
ヲ得ヘシ此場合ニ於テ債務者ハ債權ノ存在ヲ理由トシテ強制執行異議ノ訴ヲ
提起スルコトヲ得(第五四五條)ランク氏ハ該訴訟ニ於テ債權者ニ債權不存在
ノ立證責任アリト主張スト雖モ多數ノ學者ノ採ラナル所ナリ余輩モ亦債務者
ハ原告トシテ債權存在ノ立證責任アルモノト信スルカ故ニ同氏ノ説ヲ贊セス)

第六〇〇條第六〇一條(轉付命令ノ效力移轉命令ノ種類)
(4)債權カ數名ノ債權者ノ為メニ同時(第六一九條又ハ漸次ニ差押ヘラレ或ハ配
當要求債權者アリタルトキ第六二〇條ハ第三債務者ハ債務額ヲ供託スルノ權
利ヲ有シ又移轉命令ヲ得タル差押債權者第六一九條前數條ノ規定ヲ準用ス)或
ハ配當要求債權者ノ求メニ因リテ(第六二一條債務額ヲ供託スルノ義務ヲ負フ
(a)債權カ數名ノ債權者ノ為メニ漸次ニ差押ヘラレタル場合ニ於テ第一ノ差押債
權者ハ第二ノ差押アルニ拘ラス自己ニ差押債權ヲ轉付スルコトヲ得然レト
モ第二差押債權者カ第一差押アルニモ拘ラス自己ニ差押債權ヲ轉付セシメタ
ルトキハ此轉付ハ第一ノ差押債權者ニ對シテ實體上ノ效力ナシシ何トナレハ道

ハ差押債權者ノ權利ヲ害スルニ至ルヲ以テナリ故ニ第一ノ差押債權者ハ第五
百四十四條及ヒ第五百四十九條ニ從ヒテ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ債權カ
數名ノ債權者ノ為メニ同時ニ差押ヘラレタル場合ニ於テハ各債權者ハ第三債務
者ニ對シテ債務額ノ供託ヲ求ムルノ目的ニ基クニ非スシハ差押債權ノ移轉
命令ヲ申請スルコトヲ得ス何トナレハ自己ノ權利ノ滿足ヲ求ムルカ為メニス
ル移轉命令付與ハ他ノ差押債權者ヲ害スレハナリ第六一九條第三債務者ハ
債權カ漸次又ハ同時ニ數名ノ債權者ニ差押ヘラレタル場合ニ其危險負擔ニ於
テ差押債權者中ノ何人カ辨済ヲ受クルノ權限ヲ有スル者ナルヤ隨テ此者ニ對
スル支拂ノ有效ナルコトヲ調査スルノ義務ヲ負ヒ或ハ差押債權カ各差押債權
者ノ要求額ヲ満足セシムルニ足ルヤ又各差押債權者ノ債權カ正當ナルヤ否ヤ
ヲ調査スルノ義務ヲ負フモノニ非ス然レトモ第三債務者ニ其選定シタル差押
債權者ニ支拂ヲ為スノ權利ヲ認ムルハ他ノ差押債權者ヲ害スルニ至ルヘシ是
ヲ以テ第三債務者カ債務額ノ供託ヲ爲ス權利ヲ有シ又差押債權者ノ求メニ
ヲ供託ヲ爲スノ義務ヲ負フハ法理上正當ト謂ハサルヘカラス(第六二一條單

用) **第三債務者ハ數名ノ債権者ノ爲ニ差押アリタルトモハ直オニ債務額ヲ供託スルノ權利ヲ有ス而シテ第三債務者カ債務額ヲ供託シタルトキハ之ニ因リテ差押債権カ取立權アル債権者ニ支拂ハレタルト同シタ消滅シ債務者ハ供託金ノ權利ヲ取得シ差押債権者ハ此金錢上ニ差押權ヲ有スルノミ第三債務者カ債務額ノ供託ヲ爲ササルトキハ之ヲ強制スルカ爲メニ差押債権者ノ一人ハ執行裁判所ヨリ移轉命令ヲ得テ第三債務者ニ對シ債務額メ供託ヲ求メ第三債務者ハ之ニ因リテ債務額ヲ供託スルキ義務ヲ負フ(移轉命令ヲ必要ト爲ス理由ハ差押命令ノ内容ニ供託ヲ要求スルノ權能ヲ包含セサレハナリ)第三債務者ハ其權利ノ實行トシテ又其義務ノ履行トシテ供託ヲ爲スニ際シテハ供託費用ヲ供託スヘキ債務額ヨリ控除スルコトヲ得ヘシ或ハ配當費用ト同シタ配當額ヨリ優先シテ支拂ハルベキ旨ヲ請求スルコトヲ得又供託ヲ完了シタル後ハ執行裁判所ニ其事情ヲ届出テハ配當手續ヲ導用スルコトヲ得セシム執行裁判所カ届出ヲ受理セサルトキハ此決定ニ對シテ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツドコトヲ得**

ヘシ(第五五八條) **第三債務者カ其債務ノ存否若クハ供託義務ノ有無ヲ爭ヒ供託義務ヲ履行セサルトキハ移轉命令ヲ得タル各債権者ハ第三債務者ニ對シ其供託義務ノ履行ヲ求ムル訴ヲ提起スルノ權ヲ有シ移轉命令ヲ得サル各差押債権者ハ斯ル權利ヲ有セス何トナレハ後者ハ第三債務者ニ對シ債務額ノ供託ヲ求ムルノ權ナケンハナリ然レモ法律ハ各自獨立的ニ其利益ヲ保護スルヲ得セシムルカ爲ミニ後者ニ共同訴訟人トシテ移轉命令ヲ得タル債権者ノ提起シタル供託義務ノ履行ヲ求ムル訴訟ニ加ハルコトヲ得セシメタリ此訴訟ノ目的ハ債権者ニ移轉セラレタル第三債務者ニ對スル債務者ノ債権ヲ何トナレハ原告タル債権者か自己ニ移轉セラレタル債務者ノ債権ニ付キ第三債務者ニ對シ供託ヲ請求スルニ外ナラナレハナリ(支拂ノ代リニ)差押債権ノ存否ニ關スル判決ハ共同訴訟人トシテ加リタルト否トニ拘ラヌ總ラノ差押債権者ニ對シテ又ハ其爲ノモ效力アリ何トナレハ差押債権ノ存否ハ其性質上合一的ニ確定スヘキモノナレハナリ其他ノ爭點ニ關スル判決ニシテ第三債務者ニ利益アルモノハ訴ヲ受ケタル**

第三債務者カ其知リタル總フノ差押債権者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ口頭辯論ノ第一期日マタニ申立ヲタルトキニ非スンハ共同訴訟人トシテ訴訟ニ加ラナル差押債権者ニ對シテ第三債務者ノ爲メニ效力ヲ生セス然レケモ移轉命令ヲ得タル債権者ト第三債務者トノ間ニ於ケル訴訟ニ於テ言渡ナレタル判決ハ債務者ヲ爲メニ又ハ之ニ對シテ效力アリ何トナレハ取立命令ヲ得タル債権者ハ債務者ノ法定代理人ニシテ又債務者ハ移轉命令ヲ受ケタル債権者ノ被承繼人ナレハナリ(第六二三條準用執行力アル正本ヲ有スル債権者ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ヘキ債権者後者ニ關シテハ第五百九十九條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ノ適用アリ)ハ差押債権者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出フルマテ又ハ支拂ニ代ヘテノ轉付命令アルマテ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得レトモ取立ノ届出後又ハ轉付命令アリタル(後裁判所ヨリ發シタル後ハ假令第三債務者ニ對シ送達セサル場合ト雖モハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス是レ移轉命令ヲ得タル債権者ノ利益ノ爲メニ配當要求ノ時期ヲ制限シタルナリ配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者債務者及ヒ差押債

權者ニ送達セサルヘカラス蓋シ第三債務者ハ配當要求ノ送達ヲ受ケタルニ固リテ債務額ヲ供託スルノ權ヲ有スルニ至リ債務者及ヒ差押債権者ハ配當要求ニ付キ利害關係アリ殊ニ債務者ハ配當要求ノ送達後三日内ニ第五百九十一條第二項ニ基キ配當要求債権者ノ債権ヲ認諾スルヤ否セラ執行裁判所ニ申立タルノ義務アレハナリ第五百九十一條第一項ニ於ケルカ如ク通知ヲ爲ササルハ配當要求ヲ知ルノ確實ナル期スルカ爲メナルヘシ而シテ執行力アル正本ヲ有スル債権者ノ配當要求ハ既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキニ於テ要求ノ順序ニ依リ差押ノ效力ヲ生ス其理由ハ執行力アル正本ヲ有スル債権者ノ利益ヲ保護スルニ在リテ漸次ノ差押ヲ許サルノ故ヲ以テ配當要求ニ差押ノ效力ヲ認メタルニ非サルヘシ第六二〇條配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スルノ權ヲ有シ又配當要求債権者ノ求メニ因リテ債務額ヲ供託スルノ義務ヲ負フ是レ第三債務者ヲシテ多數ノ債権者アル場合ニ於ケル煩累ヲ避ケ又配當要求者シテ其利益ヲ防禦スルヲ得セシムルカ爲メナリ第三債務者ハ其義務ノ履行トシテ又ハ其權利ノ實行トシテ債務額ヲ供託スル事

際シ供託費用ヲ債務額ヨリ控除スルコトヲ得ルハ前ニ述ヘタルカ如シ又債務額ヲ供託シタル後其事情ヲ届出テ執行裁判所ノ配當準備ノ用ニ供スルコト第五百九十三條末項ト其法意ヲ同シウス而モ之債務額ノ供託ハ差押債權カ取立權アル債權者ニ支拂ハレタルト同シク消滅スルノ效力ヲ生シ債務者ハ供託金ニ付キ權利ヲ取得シ債務者カ此金錢ニ付キ配當要求權ヲ有ス第三債務者カ其供託義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ供託義務ヲ履行ラサムルカ爲メニ移轉命令ヲ得タル差押債權者ナルハシ何トナレハ單純ナル差押債權者ハ差押權アルニ止マレハナリ第六二三條取立手續ノ文字引用訴ヲ以テ供託義務ヲ履行ヲ強制スルコトヲ得執行力アル正本ヲ有スル各債權者即チ副位的差押債權者第六二〇條末項ハ獨立シテ自己ノ利益ヲ防禦スルカ爲メニ共同訴訟人トシテ原告ニ加リ又訴ヲ受ケタル第三債務者ハ判決ノ效力ヲ對抗スルカ爲メニ原告ニ加ラサル執行力アル正本ヲ有スル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ヲコトヲ得第六二一三條差押債權者方取立手續ヲ怠リタルトキハ即テ第三債務者ニ對シ供託義務履行ノ訴ヲ提起セ

ナルトキハ執行力アル正本ニ依レル配當要求權者ハ自ラ取立手續ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第六二四條)

(b) 執行裁判所ハ供託シタル金錢カ各債權者ニ滿足ヲ得セシムルニ足ルニ於テハニ債權額ヲ交付シテ執行手續ヲ終局ス(各差押債權者ニ債權額ヲ支拂ヒ或ハ協議配當ヲ爲ス反對ノ場合ニ於テハ配當手續ニ依リテ執行ヲ終局ス(第六二六條多數債權者アル場合差押ヘタル債權カ其性質上條件附期限附又ハ反對給付ニ繫ル場合其他ノ事情第三債務者カ破産シタルトキ又ハ外國ニ居住シタルトキノ如キニ因リ取立ヲ爲スニ困難ナルトキハ取立命令ノ發セラベタルト否トニ拘ラス執行裁判所ハ債權者及ヒ債務者ノ申立ニ因リテ他ノ換價方法即チ移轉命令ニ換ヘテ債權ノ競賣又ハ其任意賣却ヲ命スルコトヲ得轉付命令アリタル後ハ執行裁判所ハ斯ル命令ヲ發スルコトヲ得ス如何トナレハ債權者ハ強制執行上滿足セラレタレハナリ此申立ニ關スル執行裁判所ノ管轄ハ申立ノ時ニ於テ之ヲ定ム第五四三條裁判所カ申立ヲ許シテ欲スルトキハ決定前ニ内國ニ在リテ住所ノ知レタル債務者ヲ審訊シ困難ナル事情ヲ審札セサルヘカ

ラス申立ヲ許シタル決定ハ言渡サナル場合ニ限リ職權ヲ以テ當事者ニ送達シ申立ヲ許ナナル決定ハ唯申立者ニ送達ス債権者ハ申立ヲ許ナタル決定ニ對シ債務者ハ申立ヲ許シタル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得第五五八條而シテ取立命令カ既ニ發セラレ且ク第三債務者ニ送達セラシタルトキハ此命令ヲ取消シテ他ノ換價方法ヲ命シタル決定ヲ第三債務者ニ送達セナルベカラス第六一二條他ノ換價方法ヲ命シタル決定ノ實施ハ之ヲ執達吏ニ又ハ同屋營業者、銀行營業者等ニ委任スルコトヲ得第五八五條競賣ニ裁判所カ特別ノ命令ヲ設ケアルトキハ第五百七十二條乃至第五百七十七條第五百八十五條ヲ準用シテ行フキノナリ

第三有體動產ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスル債権ニ關スル差押以後ノ手續第三債務者カ有體物ヲ執達吏若クハ保管人ニ任意ニ交付シタルトキハ其有體物其モノカ強制執行ノ目的物タル場合ト同シク換價ヲ爲スモノタゞ第六一五條第二項第六一六條第二項獨逸舊民事訴訟法第七四六條第七四八條然レト

第三債務者カ目的物ヲ任意ニ交付セサシキヤ若ク差押債権者ハ取立命令ヲ以

テ差押債権ヲ自己ニ移轉セシメ以テ第三債務者ニ對シ目的物ヲ執達吏若クハ保管人ニ引渡スヘキコトヲ求ムル訴ヲ提起セナルヘカラス但シ此場合ニ於テハ債権者ハ民事訴訟法第六百十條ニ從ヒテ該訴訟ヲ債務者ニ告知セザルヘカラス而シテ有體物ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスル債権ハ券面額ナキヲ以テ轉付命令ヲ發スルロトヲ得ナルヤ言ヲ俟タス第六一七條獨逸舊民事訴訟法第七四八條此種ノ債権カ同時又か漸次ニ數名ノ債権者ノ爲メニ差押ヘラレ又ハ配當要求(此場合ニ於ケル配當要求ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマニ非スンハ爲スコトヲ得ス)第六二〇條参考アリタルトキハ第三債務者ハ民事訴訟法第六一五條第一項ニ從ヒ引渡セ受領ノ權限アル執達吏漸次差押ノ場合ニハ第三債務者ニ對スル決定送達ノ前後ニ依リ又同時差押ノ場合ニハ第三債務者ノ選擇ニ依リテ引渡ヲ受タルヘキ執達吏ヲ定ムルヲ當然トス)ニ引渡シ若ク差押債

権者カ民事訴訟法第六百一十五條第一項ニ從ヒテ執達吏ニ委任セサルトキヘ第
三債務者ノ申立ニ因リ物件ヲ引渡スヘキ他ノ管轄區裁判所カ選任シタクル執達
吏ニ第三債務者ハ民事訴訟法第六百二十三條ノ訴ハ避クルノ利益アルヲ以テ斯
ケ申立ヲ爲スノ權アルハ當然ナリ引渡スヘキモノニシテ又差押物カ不動產ナル
トキハ第三債務者ハ民事訴訟法第六百十六條第一項ニ從ヒ任命セラレタル保
管人ニ若シスル保管人ナキトキハ第三債務者ノ申立ニ因リ目的物所在地ノ區
裁判所カ命シタル保管人ニ引渡ササルヘカラス引渡サレタル目的物ハ其目的
物其モノカ差押ノ目的物ナル場合ニ同一手續ニ依リ換價セラム第六一五條第
二項第六一六條第二項故ニ目的物カ有體動產ナル場合ニ於テハ執達吏ハ之ヲ
競賣シ賣得金ヲ各差押債權者ニ交付シ又ハ協議配當ノ用ニ供シ當事者間ニ異
議アルトキニ於テ賣得金ヲ供託シ執行裁判所ニ届出ヲ爲ス(第五九三條第三項)
第三債務者ハ移轉命令ヲ得タル差押債權者又ハ配當要求債權者ノ求ニ因リ目
的物ヲ交付スヘキノ義務ヲ負フ而シテ第三債務者カ該義務ヲ履行セサルトキ
ハ訴ヲ以テ履行ヲ強制スルコトヲ得ルナ前述ノ如シ(第六二一條準用第六二二)

金利の要を定め放題で自己の選擇する事無く手に取る事の出来ない差押以後コトヲ得ヘキ財産等シノ債権非アルモノと見開ルが差押以後亦可取ス其事は當初本件の該款迄も既出で雖然ト是換價ハ民法上人性質反セザル以上ハ執行裁判所が命令奉ニ基クハ其行使ニ依リ或ハ裁判上任命セラレタム管理人ノ収益ニシテ第三債務者ニ對シ起訴ヲ必要ト爲スニ至リタルトキハ執權者ハ移轉命令ヲ以テ差押債権ヲ自己ニ移轉セシムルコトヲノ債権者ノ爲メニ差押ヘラレ又ハ配當要求アリタルトキハ執及ヒ第三ニ示シタル法則ニ基キ必要ナル命令ヲ命スコトヲ得項額渡又ハ管理ニ因リテ生シタル金錢公債権者ヲ備足セシキヘ執行裁判所ハ債権者ノ申立ニ因リ金錢ノ供託ヲ命令シアルヘカラヌ第六二五條末項

動産ニ對スル強制執行ニ於テ差押金錢及ヒ差押財產ノ賣得金カ差押債権者及ヒ各配當要求債権者フ満足セシムルニ足ラナル場合ニ各債権者カ配當方法ニ付キ協議調ヒタルトキベ此協議ニ基キ配當ヲ爲スヲ以テ國家ノ干涉ヲ必要トセサルキ當然ナリ然レトモ各債権者間ニ配當ノ協議調ハタルトキベ各債権者ニ正當ナル満足ヲ得セシムルカ爲メニ國家ノ干涉即チ裁判上ノ配當手續ヲ必要トス蓋シ執達吏及ヒ第三債務者ニ其危害負擔ニ於テ各債権者ニ正當ナル配當ノ施行スヘキコトヲ強フルハ失當ナレハナリ是ヲ以テ配當手續ベ公ノ手續タル性質ヲ有ス利害關係者タル各債権者ハ他有利害關係人ヲ認知セサルヘカラス若クハ配當ノ爲メニ事實上ノ基礎ヲ供スセキ地位ヲ占スナルヲ以テ又執達吏(有體動産ノ差押)及ヒ第三債務者財產權ノ差押ノ場合ニ配當スヘキ金額ノ供託ニ際シ事情ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フニ止マカルカ故ニ配當手續ハ職權ヲ以テ之ヲ實施セサルヲ得ス是ヲ以テ配當手續ニ於ケル送達及ヒ呼出ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス配當財產ニ對スル各債権者ノ配當要求權亦一ノ財產權ナリ是ヲ以テ該債権者ノ債権者ハ更ニ之ヲ差押ヘ自己ニ移轉セシムルコトヲ得ヘシ配當

(A) 手續ノ意義、管轄裁判所及ヒ配當手續ノ進行ヲ畧述スヘシ
 配當手續ノ意義
 配當手續ノ意義
 配當手續ノ意義
 配當手續トハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ各債権者ニ満足ヲ得セシムルニ不十分ナル供託金額ヲ各債権者ノ平等的満足ノ用ニ供スルコトヲ目的トスル裁判上ノ手續ナリ故ニ配當手續ノ行ハルニハ左ノ前提要件ナカルヘカラス
 第一 多數ノ配當ヲ受タル權アル債権者アルコトヲ要ス。配當ヲ受タル權アル債権者トハ民事訴訟法ニ從ヒテ配當要求ヲ爲シタル債権者及ヒ差押ヲ爲シタル債権者假差押債権者ヲ包含ス。謂フ差押權者一人ノミナルトキハ利害ノ衝突ナキヲ以テ配當手續ノ要ナキコトハ言ヲ埃タヌ故ニ配當手續ニハ債権者ノ多數ヲ前提要件ト爲スハ明白ナリ法定若クハ約定ノ優先權又ハ讓渡ヲ妨クル權利ヲ差押ノ目的物タル動産ニ有スル第三者ハ配當ヲ受タル權アル債権者ニ屬セス何トナレハ此第三者ハ其權利ヲ異議ノ訴(第五四九條)第五五六五條第五六五條配當手續ニ足ヲ求ムルノ訴(第五六五條)以テ主張シ且ツ此訴ヲ裁判スル裁判所ニ配當手續ノ停止ヲ申立フルコトヲ得ルモノニシテ第五四五九條第五六五條配當手續ニ

於テ主張スルコトヲ得ルモノニ非ナレハナリ(第六二六條、三債権者間ニ)

第二 配當ヲ受タル權アル債権者ノ爲メニ金額ノ供託アルコトヲ要ス。配當スヘキ金額ノ供託ハ執達吏又ハ第三債務者ノ爲スモノタルコトハ前述ヘタル所ナリ(第五九三條第六二一條)而シテ執達吏カ供託ヲ遅滞シタルトキハ民事訴訟法第五百四十四條ニ依リ又第三債務者カ供託ヲ爲ササルトキハ民事訴訟法第六百二十三條ニ依リ債権者ハ供託ヲ強制スルコトヲ得坦シ金錢ノ供託ヲ配當ヲ受タル權アル債権者ノ爲メニ爲オレナルトキハ配當手續ヲ實施スルノ原因ト爲ラサルヤ言ヲ換タス(第五一三條、第五二五條、第五七四條第五七九條、第六〇七條、第七五〇條第七五四條、第六二六條)……競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニシテ金額ヲ供託シタルトキニ但シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニテ文言ハ不當ナリ何トナレ。該文言アルカ爲メニ民事訴訟法第六百二十一條ノ供託ハ配當ニ關係ナキ旨ヲ示スル至ルヲ以テナリ第三項供託金額カ各債権者ヲ満足セシムルニ不十分ナルコトヲ要ス。供託金額カ各債権者ヲ満足セシムルニ不十分ナルコトヲ要ス。

者ノ利害ノ衝突ナシ故ニ配當手續ノ要ナキヤ當然ナリ故ニ執達吏カ差押金錢及ヒ賣得金ヲ供託スルトキハ常ニ各債権者ヲ満足セシムルニ不十分ナルヲ以テ差押金錢及ヒ賣得金カ各債権者ニ滿足ヲ供給スルニ不十分ナルトキハ執達吏ハ自ラ配當ヲ爲ス——第五九三條配當手續ヲ實施シ又第三債務者カ金額ヲ供託スル場合ニ於テハ該供託金額カ各債権者ヲ満足セシムルニ不十分ナルコトアリ第六二一條此場合ニ於テハ各債権者ハ配當手續ニ依ルコトナク區裁判所ノ命令ヲ以テ供託金錢ヨリ満足ヲ享有シ剩餘ノ債務者ニ交付ス。各債権者カ配當ノ方法ニ付キ合意シタルトキハ之ニ基キ各債権者ニ執行上ノ満足ヲ得セシメ特ニ裁判所ニ手續即テ國家ノ干渉ヲ要セス何トナレハ斯ル場合ニ於テハ裁判所ノ判斷ヲ要スル債権者ノ利害衝突ナケルハナリ(第六二六條協議調和タル)。前管轄裁判所ハ金額ノ供託ニ付テノ監制執行

ル執行裁判所ナリ)第六二七條、第五九三條、第六二一條、第五四三條執行裁判所ハ情況届書ニ基キテ配當ヲ受クヘキ權アル債権者ヲ認識シ且ツ該屆書ニ基キ民事訴訟第六百二十七條ニ規定シタル催告ヲ爲ス是ヲ以テ執行裁判所ハ配當ニ際シテハ執達吏又ハ第三債務者ノ提出シタル屆書ニ於テ明白ナル債権者ノミヲ配當ヲ受クル權アル債権者トシテ取扱フノミ隨テ債権者ノ執行裁判所ニ對スル直接ノ届出ハ配當ニ關シテ何等ノ用ヲ爲サナルモノト知ルヘシ(第六二七條)事情届書ニ基キ……)執行裁判所ハ供託ヲ爲シタル執達吏若クハ第三債務者カ情況届書ヲ提出セザルトキ又ハ該屆書カ不完全ナルトキハ配當ヲ受クヘキ權アル債権者ヲ認識スルノ途ナキヲ以テ配當手續ノ著手ヲ拒絕スルコトヲ得是ヲ以テ法律ハ配當ヲ受クル權アル各債権者ニ執達吏ニ對シ民事訴訟法第五百四十四條ニ依リ第三債務者ニ對シテハ民事訴訟法第六百二十三條ノ罪ヲ以テ其義務ノ履行ヲ強制スルコトヲ後エシシタリ然レトモ適法ナル情況届書カ提出セラレタルトキハ職權ヲ以テ配當手續ニ著手シ且ツ之ヲ實施セザルヘカラス

(C) 配當手續ノ進行
配當手續ノ進行ハ配當表ニ作成異議期日、異議訴訟及ヒ配當表ノ實施ノ四大時期ニ分ツコトヲ得左ニ之ヲ分説スヘン
第一 配當表ノ作成 (1) 執行裁判所ハ配當表作成ノ準備ノ爲シ各債権者ニ對シ職權ヲ以テ送達スヘキ決定ヲ以テ(第二四五條末項)其送達後七日の期間内里第一六四條乃至第一六六條背面又ハ口頭ヲ以テ元金利息費用其他附帶之債権ノ計算書ヲ差出スヘキ旨ヲ催告ス該期間ハーフ法定期間ナルヲ以テ申立ニ因リ伸縮スルコトヲ得ス第一七〇條第二項又該期間ヲ懈怠シタルニ失權ノ結果ヲ生セス配當表作成マテハ期間經過後ト雖モ計算書ヲ差押シヲ補充スルゴトヲ得第六二七條第六二八條第二項(2)執行裁判所ハ各債権者ニ對スル催告期間經過後職權ヲ以テ各債権者ヨリ差出シタル計算書及ヒ執達吏若クハ第三債務者ヨリ提出シタル届書及ヒ證據書類ニ依リ配當表ヲ作成ス執行裁判所ハ配當表作成ニ關シテ速算其他之ニ類スル若シキ誤認ヲ更正ヲ配當ヲ受クヘキ債権者ノ順序計算差出ノ前後ニ依ルモノナランヲ定ム然レトモ各債権者の債権

ノ實質上ノ調査ヲ爲スヲ得ス又差出期間ヲ遵守セナル債権者ノ債権ヲ配當要
求並ニ届書ノ旨起及ヒ其證據書類ニ依リテ計算ス配當手續費用即チ供託費用
第五九三條第六二一條實質費用保管人ニ支拂フヘキ報酬等ノ如キ其費用用
配當表作成ノ際ニ第一ニ控除シ第三〇七條強制執行手續殊ニ配當手續ニ加リ
タムニ因リテ生シタル各債権者固有ノ費用用ハ主タル債権ト共ニ配當セラル故
ニ配當ノ用ニ供セラル財産即チ執行財團ハ配當手續費用ヲ控除シタル殘額
ナリト知ルヘシ第六二八條逸舊民事訴訟法第七六〇條(3)配當表ハ之ヲ作成
スル裁判官カ裁判所書記課ニ交付スルニ因リテ作成セラレタルモノトス而シ
テ各債権者ハ配當表作成前ニ於テ其債権額ノ補充ヲ爲スコトヲ得レトモ作成
以後ヘ之ニ反ス何トナレハ若シ然ラスシハ配當表ノ作成ヲ延滞セシムルヲ以
フナリ故ニ差出期間ヲ懈怠シタル各債権者ハ異議若クヘ原狀同復申立等ヲ以
テ懈怠ノ結果ヲ除去スルコトヲ得ス然レトモ配當表作成ノ當時ニ存在シタル
材料ニ基キ配當表作成後職權アヨア又ハ民事訴訟法第六百三十條ニ依レル各
債権者ノ申立ニ因リ不當ナル事項ヲ除去スルコトハ法律ノ禁セナル所ナリ何

トナレハ配當表ハ裁判ニ非サルヲ以テ裁判所ヲ羅東スルノ力ナケレハナリ配
當表ハ各債権者及ヒ債務者ニ異議ノ準備ヲ爲サシムル目的ヲ以テ趣シタルモ異
議期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ備ヘ置キ以テ閲覽セシメアルトカラス然レ
トモ配當表備置ノ延滞若ク之ヲ爲ササルコトハ各債権者ニ配當手續ノ無效ト
シテ攻撃スルノ權ヲ得セシムルモノニ非ス唯配當期日ノ延期ヲ申立ツルノ正
當ナル原因ト爲ルノミ又裁判所ハ異議ノ期日ノ終了マテハ配當表ヲ變更スル
コトヲ得何トナレハ配當表ハ裁判ニ非サルヲ以テ毫末裁判所ヲ羅東スルモノ
ニ非ナリハナリ又不當對付シテハ當初の審訊日未開張毎度改めて來(第六二次第
第二ニ異議期日註1)裁判所ハ職權ヲ以テ前述説明参考配當表ニ關スル陳述及ヒ
配當實施ノ爲ミニ期日ヲ指定シ且ツ該期日ニ各債権者及ヒ債務者ヲ呼出オサ
メタラス債務者ハ配當表ニ對シ異議ヲ申立ツルノ權利オキツ以テ配當手續
ハ唯配當ヲ受タル權アリ債権者ハ之ヲ爲スノミ債務者ヲ呼出スヘ一見
解スヘカラサルニ似タリト雖モ債務者ハ期日ニ出頭シ誤認ヲ注章シテ之ヲ訂
正セシメ又ハ職債権者ヲシテ異議ヲ申立ツルムコトヲ得バカ故ナリ債務者

二各債権者ニ對シ民事訴訟法第五百四十五條ニ規定シタル異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルヤ言ツ候タス但シ債務者カ外國ニ在ルカ又ハ其所在不分明ナカニ爲メ債務者ノ呼出ニ付キ外國送達若クハ公示送達ヲ要スル場合ニ於フハ側外トシテ債務者ヲ呼出スコトヲ要セス配當表ニ配當ヲ受タル權アル各債権者ヲ爲メニ行フセノナルヲ以テ之ノ呼出サタルヘカラサルコトハ敢テ疑ナキ所ナリ故ニ外國送達若クハ公示送達ヲ爲ス場合ニ於テモ亦該送達ニ因レル呼出又ハ呼出ノ送達カ不適法ナルトキハ新期日ヲ指定セテルヘカラス第六二九條第一項、闇送書民事訴訟法第七六一條債務者ノ開席ハ配當手續ノ進行ヲ妨ケナルコトハ民事訴訟法第六百二十九條但書ノ規定ヨリ推理シテ瞭然タリ(2)異議期日ハ破産手續ニ於タルカ如ク届出ヲタル破産債権ノ調査ヲ爲スカ如キ旨起ニ非スシテ却テ如何ナル債権者カ如何ナル異議ヲ執行裁判所カ假ニ確定シタル配當表ニ對シ爲シタルヤフ確知スルヲ以テ目的トス(3)異議期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキニ配當表ニ從ヒ配當ヲ實施エ異議ノ申立ナカリシ配當表ノ性質い各債権者カ承諾シタル裁判所ノ旨込ニ非スシテ却テ適當ブル時期ニ於テ

異議ノ申立ナキニ因リヲ確定シタル裁判ナリ隨テ該配當表ニ裁判所及ヒ各債権者ヲ福東スルハ裁判タルカ故ニシテ各債権者ノ同意若クハ承認ニ基因スモノニ非サルナリ而シテ法律ハ取立手續ニ於テ配當スヘキ財團ニ對スル諸種ノ法律關係ヲ確定スルコトヲ欲シタリ(必要ノ場合ニ於テハ確定判決ヲ以フ)第六三六條故ニ原則トシテ各債権者ニ唯配當表ニ對スル異議申立權ノミヲ認メ又例外トシテ異議ヲ申立タル債権者ニ爾後優先權ヲ主張スルコトヲ得バノ權ヲ認メタリ(第六三三條(b)債権者カ期日ニ於テ又ハ期日前ニ於テ口頭又ハ書面ニテ異議ヲ申立テタルホキヘ即チ配當表ニ如何支拂部分ニ不服アリテ配當表ニ付キ如何ナル變更ヲ欲スルカリ併述シタルヨリキハ之ニ關係ヲ有スル債権者(民事訴訟法第六百二十六條第六百二十七條ニ所謂總ノ關係債権者ニ非ナルマ當然ナリ)ハ直ツニ異議ヲ正當ト認キルモ否キニ付キ意思ヲ表示スヘン(第三者カ民事訴訟法第五百四十九條及ヒ第五百六十五條ニ基キ配當スヘキ財團ノ配當ニ對スル異議ハ配當手續ニ屬ス又債務者ハ配當表ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得レトモ民事訴訟法第六百三十三條乃至第六百三十八條ノ適用

ナシ故ニ債務者ハ民事訴訟法第五百四十四條、第五百五十八條並ニ第五百四十五條、第五百四十六條、第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定ニ從ヒテ各債権者ニ對シ異議ヲ申立タルニ如カヌ此場合ニ於テ受訴裁判所カ民事訴訟法第五百四十七條ニ從ヒテ執行殊ニ配當ヲ停止セナル以上ハ債務者ニ異議ニ拘ラス配當表ヲ實施ス而シテ異議ニ關係アル債権者カ異議ヲ正當ナリト認メ又ハ他ノ方法ニ於テ合意シタルトキヘ總關係債権者ノ期日ニ出頭シタル事トヲ前提要件ト爲スコトハ民事訴訟法第六百三十二條第二項ノ明文ニ依リ瞭然タリ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施ス反対リ場合ニ於テハ配當表ヲ更正セヌシテ其儘ニ存シ異議申立債権者ニ關係債権者ニ對スル訴ノ提起ヲ許チサルヘカラス(第六三三條然レトモ異議ニ關係ナキ配當表ノ部分ハ配當實施ノ基本タルノ妨ト爲ラス隨テ前示ノ如キ確定シタル配當表ト爲ル是ヲ以テ異議ノ申立ハ停止ノ效力ヲ有ス)又謂フヘシ第六三三條獨逸舊民事訴訟法第七六二條(6)期日ニ出頭セス又期日前ニ書面ヲ以テ異議ヲ申立ナリレバ債権者ハ配當表其儘ノ實在ヲ欲シタルモノト看做ス此擬制ニシテノ觀念アリ其第一ハ此種ノ債権者ハ

配當表ニ對シ異議ヲ申立タルコトヲ欲セシト言ナヨリモ寧ロ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做スコト是ナリ故ニ此種ノ債権者ハ期日ニ出頭シテ異議ヲ申立テス又ハ期日以前ニ異議ヲ申立ラザレシ債権者ト法律上同一ノ地位ヲ有ス隨テ此種ノ債権者ニ對シテハ配當表カ前述ノ如ク確定シタルモノトシテ行ハル其第二ハ出頭セサル債権者カ他ノ債権者ノ申立ヲタル異議ニ關係ヲ有シタルトキ即チ若シ異議カ正當ナレハ満足ヲ享有スルコトヲ得サルモノナルトキハ其異議ヲ正當ナリト認メサルモノ即チ之ヲ争ヒタルモノト看做シ却テ配當表ニ同意シタルモノト看做スコト是ナリ故ニ此種ノ債権者ハ期日ニ出頭シテ自己ニ關係アル異議ニ對シ陳述ヲ爲チサル債権者ト法律上同一ノ地位ヲ有ス(不陳述ハ當然默示ノ認諾ト謂フヘカラス)而シテ配當表ノ更正ニハ利害關係人ノ同意即チ明示又ハ默示的ニ表示セラレタル同意アルヲ要ス出頭若クハ出頭セサル債権者ノ單純ナル不陳述ハ配當表更正ノ同意ト謂フヘカラス是ヲ以テ配當表ヲ其儘ニ存シ異議ヲ申立タル債権者ハ同意ヲ表示セサル債権者ニ對シ訴ヲ提起セサルヘカラス民事訴訟法第六百三十二條ニ基ク解説ノ結果

ヲ除去スル方法ハ法律ノ認メテ所才ニ第七三二條獨逸舊民事訴訟法第七六三條) 備考(一)此項は本件の實地に於て實行する所才ニ在る。(二)債權者ハ配當表ノ實施ヲ妨クシカ爲ニ訴ヲ提起シ且ツ其旨ヲ異議期日ヨリ七日ノ期間内ニ證明セナガヘカラス七日ノ期間ハ法定期間ノ一ナリ第一七〇條其期間ノ計算ハ民事訴訟法第百六十六條、第百六十七條ノ規定ニ依ル各別の異議訴訟ハ各別の訴訟手續ニ依リテ之ヲ爲ス然レトモ民事訴訟法第四十八條以下ノ要件アルトキハ共同訴訟トシテ提起スルコトヲ得又裁判所ハ民事訴訟法第百二十條ニ從ヒテ訴訟メ併合ス爲スロトヲ得起訴ノ證明ハ主トシテ訴訟受理ノ證明書ヲ以テ之ヲ爲ス適法ホド時期ヰ於テ起訴ノ證明ノレトキハ其判決ノ確定マテ配當表ノ實施ヲ停止シ(第六三八條然ラズアルトキハ異議を拘ラス職權ヲ以テ配當表ヲ實施ス其他期間ノ懈怠ニ結果トシカ債權者ハ民事訴訟法第六百三十三條ニ規定シタル訴ヲ爲ス人權ヲ失フ)配當表ノ變更ヲ事ムハ訴即チ異議訴訟ハ配當表ニ表示シタル所ヨリモ一層優等ナル供託金上ニ

満足ヲ求ムル權利ヲ主張スルニ外ナラス故ニ此訴訟ニ於テ原告ハ異議ヲ申立テタル債權者ニシテ被告ハ異議ニ因リ配當表ヲ不利益ニ變更セラルヘキ債權者ナリ原告ハ法律上何等ノ區別ナキヲ以テ前示ラ權利ヲ維持スルカ爲メニ自己ノ有スル優先權ノミナラス被告ノ權利ノ不成立又ハ取消サレタルコト其他被告ハ權利者ニ非ナルコト(讓渡アリタル場合ノ如キ等ラ主張スルコトヲ得訴ノ原因又被告ハ同一ノ方法ヲ以テ原告ノ權利ヲ争フコトヲ得被告ノ答辯即チ配當表ノ防禦方法原告又ハ被告カ債務者ニ對シテ有スル執行名義タル確定判決ハ争ヒタル債權者ニ對シテ效力ナシ何トナレハ判決ハ第三者ニ對シテ效力ナケレハナリ唯證據方法トシテ提出スルコトヲ得ヘシ同一ノ理由ニ依リ異議訴訟ニ付キ言渡ナレタル判決ハ債務者ニ對シテハ何等ノ效力ナモ(判決ノ效力)(2)異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ハ土地ノ管轄トシテハ配當手續ヲ行フ地ヲ管轄スル裁判所ニ又事物ノ管轄トシテハ訴訟物ノ價額ニ從ヒテ成ハ區裁判所或ハ其所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ專屬ス(第六三五條第五六三條異議ヲ申立テタル債權者ノ訴即チ民事訴訟法第六百三十三條ニ規定シタル期間ニ提起シ

タル訴ニ關シテノミ民事訴訟法第六百三十五條ノ管轄力違法ト爲ルノ事故ニ
民事訴訟法第六百三十四條ニ規定シタル訴及ヒ配當ヲ受クヘキ債権者ト其配當
要求權ヲ差押ヘタル第三者トノ間ニ於ケル訴訟ニ關シテハ民事訴訟法第六百
三十五條ノ適用ナシ(第六三五條「異議ヲ申立タル債権者ノ訴ニ」隨テ民事訴
訟法第六百三十五條ニ於テ規定シタル管轄ニ關スル條文カ民事訴訟法第六百
三十四條ニ規定シタル特別ノ訴ノ次位ニ在ル故ヲ以テ民事訴訟法第六百
十五條ノ管轄法規カ民事訴訟法第六百三十四條ノ訴ニモ亦適用アリト論結ス
ヘカラス然レトモ民事訴訟法第六百三十三條ノ期間内ニ提起シタル訴タル以
上ハ爾後起訴ノ證明ヲ爲サヌ隨テ該訴カ無効ト爲リタルノ事實ノ爲メニ管轄
ヲ變動スルモノニ非ス(第一九五條第二號訴訟物ハ異議ヲ申立タル債権者カ
配當表ニ揭示セラレタルモノヨリ他ノ配當ヲ求メンカ爲メニ申立タル數額類
ニシテ此種ノ債権者ノ爲メニ結局受領スベキ部分ニ關スル數額ニ非ス配當裁
判所トハ配當スベキ金錢ヲ供託シタル又ハ供託スベキ區裁判所モタリ(第五九
三條、第六二一條、第六二七條此區裁判所ハ執行裁判所タリ)第五四三條第五四九

管地方裁判所ハ異議期日ニ於テ完結セナリシ數箇ノ異議ノ一一付キ訴訟物ノ
價額ノ百圓以上ナルカ爲メニ管轄ヲ有スルトキハ經合該異議ヲ申立タル債
権者カ訴訟ヲ提起セサル場合ト雖モ總テノ異議訴訟ニ付キ管轄権ヲ有ス爾後
異議ヲ金百圓以下ニ減少スルモ管轄ニ關シテハ影響スル所ナシ第一九五條第
二號準用(第六三五條：數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ)ノ規定ハ全然其法
意ニ矛盾ス又各債権者即テ異議ヲ申立タル總テノ債権者及ヒ異議訴訟ノ被
告ト爲ルヘキ債権者ハ管轄ノ專屬ナルニモ拘ラス總テ異議訴訟ニ付キ裁判ヲ
受クヘキ事ヲ合意スルコトヲ得民事訴訟法第三十九條及ヒ第三十八條ニ規定
シタル默示的合意管轄ハ此場合ニ存セス何トナレハ此場合ニ於ケル管轄ハ專
屬ナレハナリ——第五六三條参考法律カ此ノ如キ變則ヲ設クタル理由ハ唯一ナ
バ配當表變更ニ關スル總テノ訴ニ付クノ裁判ヲ同一裁判所ニ委任シ以テ裁判
所ヲ異ニスルヨリ生スル矛盾的裁判ニ基キ發生スル困難ヲ除去スルニ在リ
(第六三五條獨逸舊民事訴訟法第七六五條(3)受訴裁判所ハ原告ノ異議請求ノ當
否ヲ判決スルノミナラス適當ト認メタル場合ニ配當表ヲ認可シ若クハ之ヲ變

更ス而シテ後者ノ場合ニ於フハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債権者ニ如何ナ
ハ數額ヲ以テ支拂フヘキヤト定ム其理由ハ債権者タル原告ノ異議ヲ正當ナリ
ト認ムルモ之カ爲ミニ配當額スヘキ係争數額ヲ認メタルモノト謂フコトヲ得ス
何トナレハ該債権者ノ請求額ノ計算ニ關シテハ他ノ債権者ヨリ異議ヲ申立テ
及ヒ訴ヲ提起スルコトヲ得ルヲ以テナリト云フニ在リ(同一ノ理由ニ據リ原告
ノ請求ヲ棄却シタルカ爲ミニ被告ニ配當額スヘキ數額ヲ認メタルモノト爲ラサ
ルナリ)然レトモ受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ關スル判決ヲ爲ス場合ニ於テ即時ニ
配當額ヲ確定スルコトヲ困難ナリト認メタルトキ殊ニ配當表ノ確定カ未タ判
決ヲ爲スニ熟セナル他ノ異議ノ訴ト牽連スルモノト認メタルトキハ原告ノ異
議請求ノ當否ヲ判決スルノミニ制限シ該判決ニ於フ之ニ基キ新ナル配當表ノ
調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命スルコトヲ得第六百三十六條獨逸舊民事訴訟法第七六六
條新配當表ノ調製ニ關シテハ民事訴訟法第六百二十八條乃至第六百三十五條ノ
適用アリ然レトモ以前ノ手續ニ於フ當事者ノ行爲若クハ懈怠ニ依リテ確定シタ
ル事項ハ依然存續シ新配當表ニ依リテ變更セラレス又新配當表ニ對シテ新ナ

ル異議ヲ申立フルコトヲ得然レトモ其異議ノ原因ハ調製セラレタル配當表カ
言渡サレタル判決ノ旨趣ニ適セナルコトニ在リテ又其異議申立者ハ舊配當表
ニ對シ異議ヲ申立テス若クハ申立テタルモ失權シ或ハ確定判決ヲ以テ排斥セ
ラレタル債権者ニ非ナルコトヲ要スルヤ當然ナリ(4)開席判決ノ手續ハ民事訴
訟法第二百四十六條以下ノ規定ニ依ル然レトモ特別トシテ異議ヲ申立テタル
債権者カ口頭辯論期日ニ出頭セザルトキハ其原告タル債権者ニ對シ異議(異議
ノ訴ニ非ス)ヲ取下ケタルモノト看做スヘキ旨ノ開席判決ヲ爲ス(第二四七條該
判決ハ實體的異議ノ請求棄却ト同一ノ效力アリ有ス故ニ該判決若クハ其維持判
決第二六一條カ確定シタルトキハ(第四九八條配當手續ニ於クル異議申立權ヲ
除去セラレタルモノト看做ナルノミナラス第六百三十四條第二項ニ規定シ
タル權利ヲモ喪失シタルモノト爲ル)

第四 配當表ノ實施 配當表ノ實施ハ支拂ニ依リ又未確定債権ノ権利者ニ關
シテハ供記ニ依リテ行ハル未確定ノ債権即チ停止條件附債権民事訴訟法第五
百九十一條第三項ノ場合ニ於ケル債権及ヒ假差押債権者ノ債権其他異議アリ

債権第六三一條第二項参考ニ對スル配當額ハ之ヲ支拂アトキハ債権ノ存在セタル場合ニ取戻スコト能ハサルノ危害アリ之ヲ他ノ債権者間ニ配當スルトキハ債権ノ存在シタルコト明確ト爲リタル場合ニ取戻スコト能ハサルノ危害アリ故ニ供託ノ方法ヲ以テ利害關係アル債権者双方ヲ保護シタルモノタリ(第六三〇條第二項第三項第六三八條)支拂ニ配當表ノ實施ハ配當表ノ登記又ハ一部第六三一條第二項カ適時ニ異議ノ申立ナキコト、適時ニ申立ナラレタル異議ノ取下、總利害關係人ノ合意第六三〇條、第六三二條又ハ確定判決(第六三八條)ニ依リテ確定シタルトキニ於テ之ヲ爲ス而シテ此時期ヨリシテ各配當請求権者間ニ於ケル配當上ノ問題ハ終局シ爾後不足部分アリト稱シテ返還請求ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス唯例外トシテ異議ヲ申立シタル債権者カ法定期間ニ異議ノ訴ヲ提起シタルコトヲ配當裁判所ニ證明セサルトキハ異議ニ拘ラス配當表ノ實施ヲ爲ス(ブランク氏ハ異議ノ訴ヲ配當裁判所ニ提起シタルトキハ裁判所カ其旨ヲ知ルヲ以テ起訴ノ證明ヲ要セスト主張シガラブ氏ハ反對ニ論結シタリ余輩ハ我法文上何等ノ區別ナキヲ以テ後說ヲ採用ス故ニ已ニ提起セラレタ

ノ異議ノ訴ハ適時ノ證明ヲ爲ナサリシカ爲メニ目的ヲ缺クコトト爲ル(法律や異議ニ拘ラス配當表ノ實施ヲ實施シ體制ヲ妨タルコトヲ得サルカ故ニ)法律ハ斯ル嚴酷ノ論結ヲ柔タルカ爲メニ適法ノ時期ニ行使セラレタル異議ノ原因タル實體上ノ權利ハ全然喪失シタルモノト認メサリキ是ヲ以テ適時ニ異議ヲ申立シタル債権者ニ限リテ其損害ニ於テ滿足ヲ享有シタル債権者ニ對シ爾後獨立シタル訴ヲ以テ前示ノ權利ヲ主張スルコトヲ得セシムタリ(民事訴訟法第六百三十四條ニ所謂優先權ナル用語ハ狹キニ失スト認ム)適時ニ異議ヲ申立テナリシ債権者ハ配當表ニ同意シタルモノト看做サルヘキモノナルヲ以テ又此效力ハ異議若クハ原狀同復ノ申立ニ因リ除去スルコト能ハサルモノナルヲ以テ配當手續以外ニ於テ自己ノ權利ヲ配當ヲ受ケタル債権者ニ對シ主張スルコト能ハサルヤ當然ナリ配當表ノ實施即チ配當実施ニ付テハ調書ヲ作り其實施手續ノ進行ヲ認識スルコトヲ得セシメナルベカラス(第六三〇條末項殊ニ)全額配當ヲ受ケル債権者抵當債権者其他配當額カ各債権者ヲ完済スルニ十分ナル場合ニ於ケル配當要求債権者ヒ差押債権者ニ配當額支拂證ヲ交付シタ

ルコト供託所ニ於テ現金ヲ受取ルコトヲ得ルカ爲ミニ之ヲ交付スルヲ當然トス。若シ同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出シテ之ヲ債務者ニ交付シタルコト該書類ハ債權者ニ對シテ何等ノ必要ナク又債務者ニ對シテ債權者カ濫用スルノ危険アルヲ以テ債務者ニ交付スルヲ當然トス。(2)債權一分ノミノ配當ヲ受クヘキ債權者ニ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出ナシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シタルコト債權者ハ残額ニ付キ該證書ヲ使用スルノ必要アルヲ以テ返還スルヲ當然トス配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ受取證ヲ差出シシメテ之ヲ債務者ニ交付シタルコト(3)期日ニ出頭セナル債權者ノ配當額ハ之ヲ供託シタルコト等ヲ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニセサルヘカラス(第一二九條第一三〇條第一一三三條準用)

第二款 不動產ニ對スル強制執行

金錢債權ニ付テノ不動產ニ對スル強制執行ハ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權者ラシア債務者ノ有スル不動產上ニ満足ヲ得セシムル強制執行ニシテ債務者ソ

有スル不動產ノ引渡ヲ目的トスル請求權ニ對スル強制執行ニ非ス(第六一六條又不動產ノ引渡ヲ目的トスル請求權ノ強制執行ニ非ス(第七三一條幸ニ之ヲ混淆スルコト勿レ

(一) 通論

金錢債權ニ付キ不動產ニ對スル強制執行ヲ説明スルニ當リテハ先ツ通論トシテ強制執行ノ目的タル不動產ノ意義執行ノ形式、執行裁判所執行ノ效力及ヒ利害關係人ヲ略述セサルヘカラス是レ蓋シ本歎ニ通スル觀念ナレハナリ(A) 不動產ノ意義 強制執行ノ目的物タル不動產ハ民法ニ所謂不動產ト其意義ヲ同シウシ空間ニ於テ一定不動ノ地位ヲ有スル物ニシテ土地及ヒ其定著物殊ニ建物ノ如キ之ニ屬ス(民法第八六條)其有不動產ノ持分ハ不動產トシテ強制執行ノ目的物ト爲ル唯此場合ニ於テヘ債權者カ其差押ヘタル持分ヲ競賣シ又ハ裁判上ノ授權ニ因リ債務者ニ代リテ其有物ノ分割請求權ヲ行使シ分割部分ヲ競賣スルコトヲ得ルノミ疊建具等ノ如キ不動產ノ從タル不動產民法第八七條第二項ハ主タル不動產ニ對スル強制執行ノ目的物ト爲リテ獨立シタル強制執

行ノ目的物ト爲ラス又隨テ斯ル動産ヲ強制執行上ノ不動産ナリト言フハ誤レ
リ(獨逸民事訴訟法第八六四條第八六五條)

(D) 執行ノ形式 不動産ニ對スル強制執行ノ方法ニハ強制競賣及ヒ強制管理ノ二者アリ(第六四二條第一項獨逸新民事訴訟法第八六六條第八七〇條獨逸不動產強制競賣法第一五條第一四六條強制競賣ハ債務者ノ所有不動産ヲ差押ヘ之ヲ競賣シ其代金ヲ以テ債權者ニ満足ヲ得セシムル行爲ニシテ又強制管理ハ債務者ノ所有不動産ヲ差押ヘ之ヲ管理シ其收益ヲ以テ債權者ノ満足ニ供スル行為ナリ債權者ハ其利害得失ニ從ヒ自由ニ選擇ヲ爲シ執行ノ爲メ一箇ノ方法ヲ用ヒ或ハ二箇ノ方法ヲ併用スルコトヲ得債務者ノ不動産ニ關スル管理カ其宜キヲ得サルヲ以テ價額ヲ減少シタル場合ニ於テ先ツ強制管理ヲ爲シ價額ノ増加ヲ待チテ之ヲ競賣スルカ如キハ債權者カ二箇ノ方法ヲ併用スルノ利益アル例ナリ

強制競賣ハ其目的物ヲ賣却スルニ在ルヲ以テ執行保全ノ目的ナルニ止マル假差押ノ執行トシテ用フルコト能ハナレトモ強制管理ハ單ニ目的物上ヨリ產出

スル收益ヲ債權者ノ滿足ニ供スルニ止マダカ故ニ假差押ノ執行方法ト爲ル無妨ナシ但シ後者ハ船舶ヲ對スル強制執行ノ方法トシテ船舶ノ性質上用フルコト能ハナルヤ言フヲ換タス(第六四〇條第七一七條不動産強制競賣ニ關スル規定獨逸新民事訴訟法第八六六條第二項第八七〇條第一項)

(C) 執行裁判所 不動産ニ對スル強制執行ハ申立ニ因リ裁判所之ヲ命ス(第六四一條第二項獨逸新民事訴訟法第七五五條第二項獨逸不動產強制競賣法第一五條(1)不動産ニ對スル強制執行ハ其目的物タク不動產所在地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス(民事訴訟法第六四一條第一項第五六三條獨逸新民事訴訟法第七五條第一項第七〇七條獨逸不動產強制競賣法第一條不動產ニ對スル強制執行ハ裁判所ノ取扱フ所タルハ手續上煩雜ナル故ニシテ又目的物タル不動產所在地ノ區裁判所ノ管轄土地ノ管轄及ヒ事物ノ管轄ニ屬スルハ法律カ政務取扱人便宜上執行裁判所ノ取扱フヘキ政務第五四三條第五四四條第五四五七條第三項第五四九條第三項第五五五條ヲ委任シタルカ故ナリ)

獨逸執行ノ目的物タル不動產ニ付キ何レノ區裁判所ニ管轄權又有スル事文ナリ

一箇ノ不動産カ競争ノ區裁判所ノ管轄區域内ニ跨レルトキハ直級上級裁判所

方管利害關係人ノ申立ニ因リ執行裁判所ヲ指定セナルヘカラス(義務的隨フ該
指定以前三ニ於ケル債權者ノ為シタル強制執行ヲ命スルコトヲ求ムル申立ハ之
ヲ却下セナルヘカラス而シテ此却下ノ裁判ニ對シテハ民事訴訟法第五百五十
八條ニ基ク不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ執行裁判所ノ指定ハ尙ホ
強制執行前ニ爲スヘキモノナレハナリ利害關係人即チ債權者債務者其他不動
產上權利者等ノ指定ヲ求ムル申立ニハ何等ノ要式ナク又此等ノ者ハ辯護士エ
非サル者ヲ代理人トシテ斯ル申立ヲ爲スコトヲ得何トナレハ該申立ハ司
法行政上ノ行爲ノ目的トシ受訴裁判所よりノ行動ノ目的ト爲スモノニ非ナ
レハナリ強制執行ノ目的物タル同種債務者ニ屬スル數箇ノ不動產カ競争ノ區
裁判所ノ管轄區域内ニ散在スベトキハ亦利害關係人ノ申立ニ因リ直級上級裁判
所カ管轄區裁判所ソーラシテ他ノ區裁判所ノ管轄内ニ在リ不動產三對四ル強制
執行ノ執行裁判所タラシムル旨ヲ指定スルヨリ得任意的断ル指定ナリトキ
ハ各管轄區裁判所カ執行裁判所トシテ強制執行ニ從事スル達ラリ利害關係

ハ此場合ニ於テハ総合數箇ノ裁判所ノ一ニ於テ執行手續ノ開始アリタルト
キト雖モ指定ノ申請ヲ爲スコトヲ得義務的又ハ任意的指定執行裁判所ハ總テ
ノ不動產ニ付キ強制執行ヲ指揮スル權限ヲ有スルトキ當然ナリ第六四一條第一
項獨逸民事訴訟法第七五六條獨逸不動產強制執行法第二條(2)執行裁判所ハ
債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ命ス執達吏ノ直接關涉ハ法律ノ認メサル所ナリ
執行裁判所カ強制執行ヲ爲スニ付キ債權者ノ申立ヲ必要ト爲スハ干涉審理
主義ノ適用ノ然ラシムル所ナリ債權者ハ執行裁判所ニ對シ強制執行ヲ命ス
ヘキ旨ノ申立ヲ口頭又ハ書面ニテ爲スコトヲ得第一三五條又本訴訟ノ代理人
ハ特別ノ委任ヲ要セヌシテ債權者ノ爲メニ斯ル申立ヲ爲シ之ニ必要ナル訴訟
行為ヲ爲スノ權ヲ有ス(第六五條而シテ該申立ヲ爲スニ際シテハ執行力アル正
本ヲ提出シ且ツ民事訴訟法第五百二十八條第五百三十條ニ規定シタル要件ノ
具備シタルコトヲ證明シ又必要ノ場合ニハ強制執行ノ目的物ヲル不動產カ執
行裁判所ノ管内ニ存スル旨ヲ證明シ以テ管轄權ヲ有スル旨ヲ明示カスルヘ
クス

執行裁判所ハ決定ノ形式ヲ以テ口頭辯論ヲ經ルコトヲ要セシムヲ強制執行ノ命令ヲ發ス(第五四三條第三項)執行裁判所ハ該命令ヲ發スルニ當リテ管轄権ノ有無及ヒ強制執行実施要件ノ存否ヲ調査スヘキヤ當然ナレトモ債權者カ債務者ノ有スル不動産以外ノ財產ニ付キ執行上ノ満足ヲ享有シ得ヘキヤ否ヤフ之ヲ調査スヘキモノニ非ス蓋シ債權者ハ先ツ債務者ノ有スル不動産以外ノ財產ニ對シ強制執行ヲ試ムルノ義務ナケレハナリ但シ強制執行ノ命令ハ執行文ニ於テ表示セラレタル債務者又ハ其承繼人ノ有スル不動産ニ對シフノミ許サルヘキモノニシテ執行文ニ表示セラレタル者カ執行ノ目的物タル不動産上ニ所有權ヲ有スルヤ否ヤハ一般ノ法則ニ從ヒラ之ヲ證明セラルヘカラナルハ瞭然タリ

執行裁判所カ債權者ノ申立ヲ正當認メ強制執行ノ命令ヲ發シタルトキハ之ニ因リテ強制執行ノ開始アリタルモノニシテ該命令ノ債務者ニ對スル送達ニ因リテ強制執行ノ開始アルモノニ非ス唯債務者ニ對スル送達ハ執行之效力ヲ發生スルニ過キス債務者ハ強制執行ノ命令ニ對シタルハ先ツ民事訴訟法第五百

四十四條ニ基キ執行裁判所ノ裁判ヲ求メ該裁判ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘタ第五五八條債權者ハ強制執行ノ命令ヲ求ム申立て下ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルヤ疑ナシ第五五八條(猶免不動産強制競賣法第二條第一六條)

(D)執行ノ效力ニ不動産ニ對スル強制執行ハ動産ニ對スル強制執行ト同シタ迄押質權ヲ發生スルノ效力アルヤ否キハ普國不動產強制執行法ノ解釋トシテ學者ノ爭ヒタル所ナレトモ新獨逸帝國不動產強制競賣法ハ消極的ニ立法シテ不動產ニ對スル強制執行即チ不動產ノ差押ハ唯債務者ノ處分能力ノ制限ハ來シタルノミ我民事訴訟法ニ於ケル不動產ノ差押亦差押質權ヲ設定スルモノニ非シテ債務者ノ處分能力ヲ制限スルニ止マカルコトハ平等配當主義ヲ認メタル法意ニ微シ甚タ瞭然タリ詳細ハ強制競賣ニ強制管理ノ説明ニ譲ルヘシ

(E)利害關係人ハ不動產ニ對スル強制執行之實施ニ關シフハ債權者及ヒ債務者ノ外ニ多數人利害關係ヲ有スル者ノアルベ當然ナリ我民事訴訟法ハ此等ノ利害關係人ノ利益ヲ保護スルカ爲ミニ執行手續ニ進行ニ際シ此等ノ同意ヲ得

又ハ意見ヲ聽カシメ或ハ此等ノ者ニ陳述ヲ第百四十九條シテ(第六四七條、第六四八條、第六四九條、第六五〇條)第六六七條第六七一條、第六七四條第六八〇條、第六九三條、第六九六條第七〇二條其利害關係人ノ第一ハ差押債權者及主執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ナリ前者ハ金錢債權ニ關ニシテ執行力アル正本ニ因リ強制執行ヲ申立タル債權者ニシテ後者ハ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル即チ法律上執行手續ニ參加スルコト又許可シネル附帶的執行開始ノ申立ヲ爲シタル債權者ナリ此等ノ債權者の適當度の執行手續を進行キ依リ正當ナル執行上ノ滿足ヲ享有スルノ利益ヲ有ス然レバ執行力アル正本ニ依ラタク配當要求債權者即チ民法ノ規定ニ依ル配當要求債權者の執行名義ヲ有セラルヲ以テ执行手續ノ實施ニ關シ利害關係ヲ有スルモノニ非ス隨テ茲ニ所謂利害關係人三屬セシ其第二ハ債務者即チ強制執行手續開始ノ際ニ於テ執行ノ目的物タル不動產ノ所有者ニシテ執行セラル者タリ其所有權之登記簿ニ記入シテ否ト又債權者ニ對シ對人的債務ヲ負フト否トヘ之又間外サルオリ債權者セ執行當事者ナルヲ以テ執行手續キ利害關係ヲ有スルハ言可矣然ル其第三ハ不

動產ニ對スル執行ノ開始ヲ登記簿ニ記入シダニ據ニ第六五一條既ニ登記簿也
不動產上ノ權利者トシテ記入セラレタル權利者殊ニ登記簿記入済ノ他物權者
タリ此種ノ權利者ハ執行ニ際シ不動產上ノ權利ヲ防禦スルノ利害關係ヲ有ス
不動產登記法第一條其第四ハ不動產上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シ且ツ執
行紀錄ニ備フヘキ届出ヲ為シタル者ニシテ未納ノ租稅其他ノ公課ヲ取立タル
權アル國家其他ノ公法人明治十三年三月布告第七號地租條例同年四月布告第十
六號地方稅規則明治二十一年三月法律第九號國稅徵收法明治二十三年九月法
律第八十八號府縣稅徵收法同年十二月法律第三十二號國稅滙納處分法同年同
月法律第三十號地方稅及土地稅滙納處分法等參考一般ノ先取特權ヲ有ス
ル者執行開始ノ登記記入後目的物タル不動產ノ所有權ヲ取得シタル者不應產
ハ貸借者ノ如キ登記簿ニ記入シアル權利者ハ之ニ屬ス(第六四八條獨逸不
動產強制競賣法第九條)

(二) 強制競賣(大正ニ競賣章證手續並賣手續書ニ關ニシテ其實質不詳又ヨ
不動產ニ對スル強制執行ノ方法トリテ最も有力ナムモ大ヒ強制競賣ナ矣這入

不動産ノ所有者ニ對スル請求權ノ満足ノ爲ニ該不動産ニ對シテ行フ裁判上ノ賣却ニ外ナラス左ニ競賣準備手續、競賣手續競落ニ關スル決定、配當手續及ヒ再競賣等ニ關スル法則ヲ略述スヘシ

(A) 競賣準備手續　執行裁判所ヘ債權者ノ申立ニ因リ開始セラレタル執行ア爾後職權ヲ以テ施行ス執行裁判所ヘ一方ニ於テハ執行ノ目的物タル不動産ノ賣却及ヒ其賣得金ノ配當ヲ實施シ他ノ一方ニ於テハ手續ニ依リテ生シタル爭訟事件ヲ終局ス此裁判ニ對シテ即時抗告ノ述アレコトハ前述シタル所ナリ但シ競賣手續ニ於テ争訟ノ目的ト爲リタル實體上ノ權利元關シテハ通常ノ訴訟手續ニ依リ受訴裁判所ノ裁判スベキモノナルヤ言ヲ埃タス
 (1) 不動産ニ對スル強制執行ハ債權者ノ單獨の申立ニ因リ執行裁判所カ競賣手續開始決定ヲ以テ強制執行ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルニ依リテ開始スルコトハ前述シタル所ナリ債權者ノ強制競賣ノ申立ニシテ第十二債權者債務者及ヒ裁判所ヲ表示セナルヘカラス債權者ハ不動産ニ對スル強制執行ノ開始ヲ申立タル權利者ニシテ債務者トハ強制執行ヲ受クヘキ執行ノ目的物タル不動産ノ所有者ニシテ又裁判所

トハ民事訴訟法第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ管轄權アリ裁判所タリ第二ニ執行ノ目的物タル不動産ヲ表示セタムヘカラス第三ニ競賣ノ原因タル一定ノ債權即チ債權者ノ執行セントスル債務者ニ對シテ有スル請求權債務ノ原因及債務名義ニ於テ明白ナラサルトキハ特ニ之ヲ表示セサシヘガラス)及ヒ執行シ得ベキ一定ノ債務名義即チ確定判決ナルヲ和解調書ナルセ或ハ公正證書ナルヤノ點ヲ表示セナルヘカラス第四ニ執行力アル正本其他強制執行開始ノ爲メニ必要ナル證書ヲ添附セタル(カラス第六四二條、第六四三條第一項獨逸不動產強制競賣法第一六條、第五十六條第五二八條乃至第五三〇條第五六十條民民事訴訟法第五百二十八條ニ規定シタル同時ノ送達ハ不動産ニ對スル強制執行ニ於テ認メラレシナルモノト謂フシ該要件ヲ具備セナル申立ハ執行裁判所ノ却下スル所ト爲ル何トナレハ此等ノ事項ノ一カ不分明ナルカ又ハ執行當事者ノ表示カ債務名義並ニ執行力アル正本ニ於ケル表示ト異ナルトキハ執行行スルコトヲ得サムノ以テナリ(申立ノ要件)民事訴訟法第六百四十二條要エ音漏西不動產強制競賣法第十三條要エ又強制競賣ノ申立ニシテ債務者カ執行

人目的物タク不動産ノ所有者タルヨリノ證明シ且ツ最低競賣價額ノ評價ヲ爲スノ便アルカ爲夫三民事訴訟法第六百四十九條第一項第一乃至第五ニ規定シタル書類ヲ添附スル可レバ而シア第二、第三及ヒ第四ノ事項ニ關シテハ債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳稅務署都役所市町村役場外題ニ其證明書ヲ求ムル事トヲ得地券譲受證書等ノ如キ證明書ナキ場合ニ又第四及ヒ第五ノ事項ニ關シテハ債權者ハ證明不能ノトキニ限リ(貸貸借並開スル證明書カク又建物ノ記入ガ市町村役場主管人公簿ニ造脫シタガ場合ハ如キ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請シ同裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲シムスル證明書ノ添附ハ要件ニ非タルヲ以テ之ヲ缺キタル申請ハ法則上不適法トシテ却下スルミトア得ス然レトモ適當ナル證明大至考以テ實體上不當トシテ却下セラ所也コトアリ蓋シ不動產ニ對スル強制執行ハ其目的物タル不動產ノ所有者ニ對スルアミ行ハルベキモハレヘタリ(第六百四十三條第一項)「普漏面不動產競賣法第一四條但シ強制管理人爲本既ニ不動產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記錄ニ第一乃至第五ハ事項ヲ證明以外の書類アハトキハ爾後競賣ノ申立ヲ爲ス

ニ當リテ更ニ前示ノ證明書ヲ添附スルノ要ナシ蓋シ申請者ニ對シ徒ニ時間ト費用ト努力ヲ消費セシムルニ止マレハナリ而シテ法律上何等ノ區別ナキヲ以テ強制管理ヲ申立テタル債權者ト強制競賣ヲ申立テタル債權者ト同一ナルコトヲ要セサルナリ(第六四三條第三項)執行裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲スハ際ニ第六五一條普漏面不動產強制競賣法第一八條第一項即テ該決定ヲ爲シタルトキハ勿論未タ該決定ヲ爲スニ熟シタル程度ニ達セサル場合ト雖モ職權ヲ以テ債權者ノ利益ノ爲スニ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入スヘキ旨ヲ登記判事ニ囁託セサルヘカラス(獨逸不動產強制競賣法第十九條第一項カ普漏面不動產強制競賣法第十八條第一項ト異ニシテ裁判所ハ競賣手續開始決定ヲ爲スト、同時ニ登記官衙ニ該命令ヲ登記簿ニ記入スヘキ旨ノ囁託ヲ爲スコトヲ要スト規定シタルハ立法上正當ナリ我民事訴訟法第六百五十一條第一項ハ斯ル旨趣ノ法文ニ修正セラレンコトヲ望ム)第六百五〇條登記判事ニ該囁託ニ應シテ記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ且ツ不動產上權利者(不動產登記法第一條參考)ヨリ差出シタル證書質入抵當證書ノ題ノ抄本ヲ送付ス

(第六五一條第三項、第六五二條不動産登記法第二五條以下普瀬西不動産強制競賣法第一九條獨逸不動産強制競賣法第一九條第二項是レ執行裁判所ヲシテ民事訴訟法第六百五十三條及ヒ第六百五十五條第六百五十六條ノ規定ニ則リ處分スルノ當否ヲ認識セシメ又配當表ヲ材料ヲ得セシムルニ在リトテ執行裁判所ハ競賣ノ申立ヲ正當ト認メタルトキハ執行ヲ爲スヘキ旨ヲ命令ノ一タル競賣手續開始決定ヲ爲シ職權ヲ以フ之ヲ債権者及ヒ債務者は送達ス(第二四五條債務者ハ該決定ニ對シ執行裁判所ニ異議ヲ申立テ第五四四條乏ワ是認セサル執行裁判所ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スヨリトラ得第五五八條又競賣ノ申立ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ却下スル旨ヲ裁判ヲ爲シ之ヲ債権者ノミニ送達ス而シテ債権者ハ該決定ニ對シ直チニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得第五六八條前者ノ場合ニ於テ執行裁判所ハ前示シ如キ登記記入ヲ嘱託ヲ爲シ決定前ニ於テ登記記入ヲ嘱託ヲ爲シタルトキニ限リ又租税其他ノ公課ヲ主管スル官廳市町村役場郡役所稅務署等ニ競賣手續ノ開始決定ヲタル旨ヲ通知シ其目的物タル不動産ニ衝スル債権未納課税其他ヲ公課ノ有無及ヒ限度ヲ申

立ツヘキコトヲ期間ヲ定メテ債務者サルヘカラス是レ執行裁判所ヲシテ民事訴訟法第六百五十五條ヒ第六百五十六條ニ則リ適當ナル處分ヲ爲スヨリトテ得セシムルカ爲メナリ(第六五四條)競賣手續ノ開始決定ヲ爲シタルトキハ債権者ノ所有不動産ヲ競賣手續ノ開始決定決定ヲ爲シタルニ外ナラス第六四四條普瀬西不動産強制競賣法ハ第十六條第一項ト同シク同時ニ債権者ノ爲メニ不動産ヲ差押タルトヲ宣誓オ可シト規定シタレトモ立法上甚タ失當ナリ獨逸不動産強制競賣法第二十條第一項ヲ如ク競賣ヲ命シタル決定ハ債権者ノ爲メニ不動産ヲ差押ヘタルニ外ナラスト謂フア正當ト信ス蓋シ特ニ民事訴訟法ノ如キ宣言ヲ爲スヘ無益ノ手續ナルヲ以テナリ不動産ノ差押即チ債務者ニ對スル其所有不動産ニ關スル處分權ヲ制限シ執行裁判所カ差押決定ヲ債務者ニ職權ヲ以テ送達スルニ因リテ效力フ。生ス。第六四四條第三項、普瀬西不動産強制競賣法第六條第二項、獨逸不動産強制競賣法第二二條第一項上段債務者ハ差押效力。力トシテ爾後債権者ノ利益ヲ害スベキ差押不動産ニ關スル處分ヲ爲スコトヲ得ス故ニ債権者ノ權利ヲ害スヘキ差押不動産

ニ關スル法律上ノ處分ハ無效ニシテ又事實上ノ處分ハ不法ニシテ刑法上罰スベキ價值アルモノタリ(獨逸刑法第二三七條參考ト雖モ差押ニ因リク發生シタル債權者ノ權利ヲ侵害セナル範圍内ニ於テ債務者ハ差押不動產ヲ讓渡シ若クハ之ニ他物權ヲ設定スルコトヲ得ヘシ又差押不動產ノ管理及上利用ヲ爲スコトヲ得ヘシ第六四四條第二項普漏西不動產強制競賣法第一六條第二項獨逸不動產強制競賣法第二四條隨テ飼料不足ノ爲メ家畜ノ一部分ヲ賣却シ傳染病ニ罹リタル動物ヲ殺スカ如キ差押物ノ主タル部分ヲ保全スルカ爲メニ其一部分若クハ從タル部分ノ處分スルカ如キハ債務者ノ自由ニ爲シ能フ所ナリ債權者ハ債務者ニ斯ル權利ヲ行ヘシムルニトヲ欲セナルトキハ強制管理ノ申立ヲ爲シ其目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ債權者ハ差押ノ效力トシテ競賣ノ申立若クハ差押アリタル吉トヲ知リテ差押物ヲ取得シタル第三者ニ對シ強制執行ヲ續行スカヨリナリ得ルニ止マリ獨逸競賣法ニ於ケルカ如ク差押ニ因リ債權者ノ爲メニ抵當權ノ設定セラレタルモノトナシテ債權者ハ優先權ヲ取得シ差押ニ因リ債權者ノ破産ニ於ク別除權ヲ主張スルヨリトヲ得又差押不動產上ニ權利ヲ取得シタクハ第三者ハ其取得

ノ際差押又ム競賣ノ申立アリタルヨトヲ知リタル事半キハ差押ノ效力ニ對テ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス故ニ惡意ヲ第三取得者ハ差押ノ效力ナシテ其取得行為ヲ相對的無効タリコトヲ知リタルハカラス體ナ惡意ヲ第三取得者ハ差押ノ續行ヲ妨クルコトヲ得ス唯執行手續ニ於テ利害關係人未ハアルミ第三取得者カ善意ナルトキハニ反ス是レ善意ノ取得ヲ保護スルノ法意ナリ民法第一二九條參考競賣ノ申立ヲ登記捺印シ記入シタル後ニ於テ差押不動產上ニ權利ヲ取得シタル第三者ハ記入ノ效力トシテ該申立ヲ知リタルモノト認メラル第六四五條但シ差押不動產が差押ノ原因タル請求權ノ爲メニ義務ヲ負擔シタルトキ即チ競賣權抵當權ノ如キ擔保ノ目的物タルトキハ差押後該目的物上ニ所有權ヲ取得シタル第三者ハ其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキ即チ善意ナルトキト雖モ競賣手續ノ續行ヲ妨クルコトヲ得ス蓋シ第三取得者差押又ハ競賣ノ申立ノ有無ニ關係ナク斯ル權利ノ主張アルコトヲ認識セタルヲ得ナシメナリ差押前ノ取得ノ關係シテハ新所有者ニ對スル債務名義アルニ非ヌシハ強制執行ヲ爲スヨリコトヲ得ス民事訴訟法第六百五十

候第二項差押後又登記ヲ必要ト爲不質権延當權人如キ物上擔保權未シ者登記ナキ以上ハ本條ノ適用ナキコトア民法第百七十七條ニ依リテ明瞭ナリ又第六五〇條第二項普漏西不動產強制競賣法第十七條同様不動產強制競賣法第二六條(改モセラモサ用ヤ差意ハシニテテ此ニ競賣半期ノ競賣半期ノ競賣半期モテ)第差押不強制執行ノ目的ヲ達スガカ爲之ニ之ヲ爲ス故ニ債權者ニ競賣ノ申立ヲ取下ケタルトキ(裁判所ノ決定ヲ要シシテ當然消滅ス是レ不干涉主義ノ結果ナリ)又ハ執行裁判所カ執行手續ヲ取消シタルトキハ差押モ依リ發生シタル債權者ノ權利ト共ニ消滅スルニ言ヌ矣タゞ第六五〇條第三項第六五三條第六五六條普漏西不動產強制競賣法第一七條第三項獨逸不動產強制競賣法第二八條第二九條(改モセラモサ用ヤ差意ハシニテテ此ニ競賣半期ノ競賣半期モテ)總タノ不動產及ヒ其從タル物ハ總タノ差押モトヲ得ムモノニ非ス第十一債務者ハ差押不動產ノ利用及ヒ管理ヲ爲スノ權利アルヲ以フ利用及ヒ管理ニ必要ナル產出物其他資金等ハ不動產ニ對スル強制執行ノ目的ト爲ヌ(普漏西不動產強制競賣法第一六條獨逸不動產強制競賣法第二二條第二ニ華族世襲財

產ノ如ク法律上競賣ノ禁シタル不動產ハ強制執行ノ目的ヲ達スルコトヲ得テル又以テ不動產ノ強制執行ノ目的物ト爲ク者第三章既ニ競賣手續ノ開始決定ヲ爲シタル不動產ニ關シテハ債權者ノ競賣ノ申立アノ時更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス是レ有體動產ニ對シ重復差押ヲ許ナシアルト同一ノ法意ナリ然レトモ該申立ハ之ヲ執行記錄ニ添附スルニ因リテ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續カ取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セラル限ハ開始決定ヲ受ケタルノ效力ヲ生シ此種ノ債權者ノ爲メニ競賣手續ヲ進行ス此場合ニ於テ差押ノ效力ハ如何ナル時期ニ於テ發生シタルモノノト認ムヘキヤノ點ニ關シテ法律上明文ニ缺ケリ公報ハ解釋上該申立ヲ債務者ニ通知シタル時ニ於テ發生スルモノト言ハント欲ス第六四七條第六四八條第三項引用獨逸不動產強制競賣法第二七條參考普漏西不動產強制競賣法第一五條又該申立ハ登記簿ニ記入スヘキモノニ非ス隨テ開始決定ヲ受ケタルノ效力ヲ生シタル場合ニ於テ第三取得者ニ對スル差押ノ效力ヲ定ムルニ付キ事情ニ隨ヒテ該申立ヲ知リタルヤ否ヤヲ定メタルヘカラス差押債權者ヨリ競賣セラルヘ奇

カニ非ス但シ假差押ノ命令にてタル不動産ニ骨子サ競賣手續開始決定ヲ爲ス
又不得蓋シ重複差押又禁止ハ已ニ差押アリタルコトヲ前提トセレバナリ(第
六四五條數名)差押債權者ノ爲ヨニ同時ニ不動産ノ差押ヲ爲ス場合ニ於テ
又前示法則又常用セガタニカラス第七二二條(競賣手續ノ開始決定並其事由中
(2)競賣手續ノ取消及ヒ停止ハ民事訴訟法ニ規定タル手續ヲ盡スニ依リテ行ハル
第五五一條第五六〇條民事訴訟法ニ規定タル手續ヲ盡スニ依リテ行ハル(第
五〇〇條第五一二條第五二二條第二項第五四四條第五四九條第五五十條第五
六〇條第五六二條殊ニ第三者ハ執行ノ目的物ニ付キ所有權其他目的物ノ讓渡
若クハ引渡フ妨タルノ權利ヲ執行參加シ訴ヲ以テ主張シタルトキハ競賣手續
ノ取消ヲ爲スヨドアリ然ルトモ競賣若クハ其手續ノ積行ヲ妨タル權利ノ存ス
ル事實カ登記判事ノ通知ニ因リテ顧バアルトキハ執行裁判所ヘ直ナシ(斯ル訴
ヲ要セシテ職權ヲ以テ手續ヲ取消シ又競賣手續ノ積行ヲ妨タル障碍ヲ除去
スルコトヲ得ル場合ニ手續ヲ一時停止ヌ後者ノ場合ニ於テ小裁判所勝其意思
寧以テ定ムル期間内ニ其障礙ヲ消滅シタルヨドウ證明ス又其旨ヲ債權者往命

シ債權者カ該期間ヲ徒過シタル後職權ヲ以テ競賣手續ヲ取消ス蓋シ執行ノ自
的ヲ達スルコトヲ得サレハナリ(第六五三條普漏西不動產強制競賣法第二〇條)
獨逸不動產強制競賣法第二八條其他執行ノ目的物タル不動產ノ最低競賣價額
ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先ツ不動產上に總クノ負擔及ヒ執行費用ヲ辨済シ
テ剩餘アルノ見込ナク且ツ其旨ヲ差押債權者ニ通知シタルモ該債權者カ通知
ヨリ七日ノ期間内ニ前示ノ負擔及ヒ費用ヲ辨済シテ剩餘アルヘキ價額ヲ定メ
且ツ其價額ニ應スル競賣人ナキ場合ニ於テ自ラ其價額ヲ以テ買受クヘキ旨ヲ
申立テ之カ爲ミニ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス蓋シ斯ル
場合ニ競賣手續ヲ積行スルモ執行ノ目的ヲ達スルコトヲ得サレハナリ不動產
ノ最低價額トハ裁判所カ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課主管ノ官署ヨリ通知ヲ
受ケタル後鑑定人ヲシテ鑑定セシメタル評價額ナリ通知ヲ受ケタル後ニ鑑定
ヲ爲ス理由ハ通知ノ結果不動產ノ競賣ノ目的物タルニ足ラサセトキハ評價費
手數ヲ省略スルコトアレハナリ不動產上ノ總クノ負擔並み租稅公課不動產
上ニ設定セラレタル物上擔保抵當質等々ヲ指示ス(第六五五條第六五六條第六

四九條 競賣手續ノ取消及停止ヲ命令シタル後定金債權者、債務者若ク並第三者取消及停止ノ命令ヲ求ムル申立ヲ爲シタル第三差三送達シ又債權者ハ該決定に對シ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルヨトモ得第十五八條面シ競賣手續取消之場合ニ於テハ登記判事ニ競賣ノ申立アリタル旨メ登記記入抹消ヲ嘱託ヲ爲サルヘカラス(第六十九〇條)競賣不動產強制競賣法第三二條第三四條(競賣手續之停止及取消)

(3)執行裁判所ハ債務者ニ競賣手續開始決定ヲ送達シ且フ不動產ノ最低價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先フ不動產ノ負擔及ヒ手續費用ヲ控除シ猶ホ剩餘ヲ得ダノ見込アリト認タル後又ハ差押債權者カ民事訴訟法第六百五十六條第二項ニ規定シタル申立ヲ爲シ十分オル保證ヲ立オタク後ニ競賣ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メ之ヲ公告ス(第六五七條)競賣期日ノ指定及ヒ其公告の賣却ノ申込ニ非スシヲ却テ競賣價額申出ノ一概的催告ナリ競賣人ノ競賣申出カ取引ノ申込ニシテ承諾ニ非オガナリ競賣期日ノ特定及ヒ公告ヤ其固有ノ期

第三章 競賣手續

○商法施行前ニ於ケル運送人間ノ求償權(本文)數人相次キテ運送ヲ爲ス場合商法第三三九條參照ニ於テ一運送人カ運送品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ニ任シタルトキハ其後者タル各運送人ニ對シ求償權ヲ有スルカ換言スレハ後者タル各運送人ハ前者タル運送人ニ對シ連帶ニテ其求償權ニ服セナルヘカラナルカ此問題ハ後者タル運送人カ前者タル運送人ヨリ運送品ノ運送ヲ引繼キタル法律關係ノ如何ニ依リテ其論決ヲ異ニスルナラント思考セラル尤モ商法施行前ニハ如何ナル規定アリシカ今之ヲ探究スルノ遠ナシト雖モ若シ後者タル運送人ニシテ前者ノ荷送人若クハ荷受人ニ對スル責任ト同一ノ責任範圍ニ於テ引繼キタリトセハ総合自己ノ後者カ過失又ハ故意ヲ以テ運送品ノ滅失又ハ毀損ヲ生シタル場合ニ於テモ自己ノ前者ニ對スル責任ヲ免ルコト能ハナルモノト謂ハナルヘカラス此實際問題ニ對シ東京控訴院カ過失ナキ中間ノ運送人モ仲繼運送ヲ託セラレタルモノナリトシテ爾後ノ運送人ト連帶シテ前

者ノ求償權ニ服キ大審院カニシテ判決シタルニ大審院ハ之ヲ破毀シテ曰タ「數人相繼キテ運送ヲ爲スニ當ニ荷物カ其到達地モ遠キスシノ荷送人ニ損害ヲ生ジ運送人中ノ一人カ之ヲ賠償シタル場合ノ求償ニ於テ求償者ニ對シ此者ヨリ後ニ運送ニ從事シタル運送人等ニ連帶責任アリトノコトハ舊商法及ヒ新商法共ニ之ヲ認メサルト同シテ商法施行以前ノ慣例ニ於テモ亦認ムビサル所ナリ此ノ如キ場合ニ於テ損害ヲ陪償シタル運送人中ノ一人ハ不法行為ヲ爲シタル運送人ニ對シ求償權アバノ外其行為者タラナル他ノ運送人ニ對シ才全部ノ請求權ナシト(大審院判明治三十六年(即第十五年)一月二十八日第二民事部判決)
○償還義務者ノ求償手續
手形ノ裏書人ナガル其後者ニ對シ償還義務ヲ履行シ
債還請求者ハ其償還義務ノ履行者ヲ被裏書人トシテ裏書ヲ爲シタル場合ニ於テ其義務履行者カ更ニ其前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲シタル事實ニ對シ東京控訴院ハ其義務履行者タル償還請求者ハ手形文言上被裏書人トシテノミ其權利ヲ行使スヘキモノナリト判断シタルニ大審院ハ之ヲ破毀シテ曰タ手形上ノ債務ハ其記載文言ニ依リテ定マルコトハ原判旨ノ如クナレトモ手形債權者ノ債

遺請求ニ應シ辨濟ヲ爲シタル債還義務者カ其前者ニ對シ償還請求ヲ求ムルニ
ハ商法第四百八十八條ニ依ル外他ニ履行ヘキ手續アルコトナシ故ニ償還ヲ爲シタル事實ヲ主張シ右規定ニ從ヒ求償ヲ爲ス者アル場合ニ於テハ其義務ヲ履行シタル證據トシテ提出スル手形ニ被裏書人トシテ記載セラレタルト否ハ其請求ノ當否ヲ決ヌル準據ト爲ラス」ト(手形金償還請求事件明治三十六年(即第十七年)三月十九日第一民事部判決)
○積荷ノ保険其並積荷ヲ以テ海上保険契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其保險契約ニ指定セタル危險カ航海ノ途中ニ於テ生シタルニ因リ已ムヲ得ス其積荷ヲ廉價ニ賣却シタルヨキ保険者ハ其損失額ヲ填補スルノ責ニ任スヘキヤ否ヤニ付キ第二審大阪控訴院ニ於テ積荷ノミノ保険契約ナリシトキハ被保險人カ保險金ヲ受取ル可キ権利ヘ積荷其物ニ損害ヲ生シタル場合ニ制限セズヒ云云トノ理由ニ據リ保険者ハ積荷ノ賣却ニ因ル損失ヲ負擔スル責任ナシト判決シタルニ大審院ハ之ヲ破毀シテ曰タ「商法第六百五十三條第一項ニ「海上保険契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リ生スルヨリ又ハ前き損害ノ填補又以テ目的トス」

卷二

四

ドアリ其館六百五十四條ニ保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別圖ノ定アレ場合ヲ
除外外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因ラ生シタル一切ノ
損害ヲ填補スル責ニ任ストアリテ保險契約ノ目的ニ付テモ保險者ノ責任ニ付
テモ積荷ノミヲ保險ニ付シタル場合ハ即積荷ノ運送ニ關スル危險ニ付シタル
モノナルヲ以テ損害ノ填補ヲ積荷其物ノ流失滅損等ニノミ制限シタルモノニ
アラス殊ニ其第六百七十條第一項ノ規定ニ依レハ航海ノ途中ニ於テ不可抗力
ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ
中ヨリ運送貨其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險額トノ差ヲ以テ保險者ノ負
擔ト爲ス可キモノニヨリ是ニ由テ之ヲ觀レハ積荷ノミヲ保險ニ付シタル場合ト
雖モ其損害ノ填補ハ積荷其物ノ流失滅損等ニノミ制限シタルモノニアラスシ
テ天災若クタヘ衝突等ノ爲メ船體損傷シ指定港ニ運漕スル能ハサル如キ不可抗
力ニ因リ途中ニ於テ積荷ヲ賣却シ損害ヲ生シタル場合保險者カ其損害ヲ負擔
ス可キモノナルコト寔ニ明ナリ」ト(大審院事件明治三十五年六月二日判決)

高等科講義錄

第
八
號

卷之三

- | | |
|---|---|
| ○先取特權ニ付フノ解説 | ○解説及ヒ解説ニ關スル者同 |
| ○民法第百九十九條ニ就クノ無問 | ○民法第百九十九條ニ就クノ無問 |
| ○民法第百九十五條ニ就クノ准用 | ○民法第百九十五條ニ就クノ准用 |
| ○弟兄ト法定代理人、無能力者ノ法律行為ノ效力及ヒ法律行為ト訴訟進行等ノ権利ニ付フノ解説 | ○弟兄ト法定代理人、無能力者ノ法律行為ノ效力及ヒ法律行為ト訴訟進行等ノ権利ニ付フノ解説 |
| 解説士 梅次郎
田代 勝雄
吉澤士 藤代 春雄
佐藤士 佐藤未郎 | 解説士 梅次郎
田代 勝雄
吉澤士 藤代 春雄
佐藤士 佐藤未郎 |

新嘉士
秋山雅之介
田代雄
大勝
藤井英太郎

和佛法律學

三十六年五月

卷之三

ドアヲ其第六百五十四條ニ「保険者ハ本章又ハ保険契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保険期間中保険ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責ニ任ストアリテ保険契約ノ目的ニ付ナモ保険者ノ責任ニ付テモ積荷ノミヲ保険ニ付シタル場合ハ即積荷ノ運送ニ關スル危險ニ付シタルモノナルヲ以テ損害ヲ填補フ積荷其物ノ流失滅損等ニノミ制限シタルモノニアラス殊ニ其第六百七十條第一項ノ規定ニ依レハ航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保険ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其實却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送費其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保険額トノ差ヲ以テ保険者ノ負擔ト爲ス可キモノ」リ是ニ由テ之ヲ觀レハ積荷ノミヲ保険ニ付シタル場合ト雖モ其損害ノ填補ハ積荷其物ノ流失滅損等ニノミ制限シタルモノニアラスシテ天災若クハ衝突等ノ爲メ船體損傷シ指定港ニ運漕スル能ハサル如キ不可抗力ニ因リ途中ニ於テ積荷ヲ賣却シ損害ヲ生シタル場合保険者カ其損害ヲ負擔ス可キモノナルコト寔ニ明ナリト(大審院明治三十五年五月十九日第ニ民事二件判決)

高等科講義錄

第八號
五月二日發行

民法 次

- 先取特權ニ付フノ講演
- 詐欺及ヒ脅迫ニ關スル推問
- 民法第百九十九條ニ就クノ推問
- 民法第百九十五條ニ就クノ推問
- 船兒ト法律行為ノ能力者ノ法律行為ノ效力及ヒ法律行為ト訴訟行為ノ區別ニ付フノ講演
- 審裁手段ノ背信行為ニ關スル講演

法學博士 梅 謙次郎
法學博士 梅 謙次郎
法學士 田代 律雄
法學士 鈴木英太郎
法學士 畑代 雄雄
法學士 秋山雅之介

○羅馬法(自九三五百一二四四〇)

○最近判例監察官監察官五大法律學校聯合懸賞大討論會

アントワネット

田 中 遼

三十六年五月

和佛法律學校

報

○最近判例監察官監察官五大法律學校聯合懸賞大討論會

